

九州大学 障害者支援ピアソーター

# 活動報告書

2018



# 目次

第1章 はじめに .....	2
1.1 九州大学障害者支援ピア・サポーターとは .....	2
1.2 アクセシビリティリーダーについて .....	2
1.3 組織 .....	3
1.4 年間活動表 .....	3
第2章 活動報告 .....	4
2.1 支援活動	
・PC ノートテイク .....	5
・バリアフリーマップ .....	9
・移動支援 .....	13
・地域連携「わくわく！大学たんけん隊」 .....	15
・パーソナルサポート（学習サポート活動） .....	20
・発達障害のある高校生向けのオープンキャンパス .....	22
2.2 啓発活動	
・Facebook .....	26
・Twitter .....	30
・新歓企画 .....	34
・教職員向け啓発ハンドブック作成 .....	39
・災害サイン作成 .....	42
・高校生交流 .....	46
・ポスター・ビラ制作 .....	48
2.3 研修活動	
・手話 .....	51
・メンタルヘルス勉強会 .....	55
・車椅子ガイドヘルプ講習会 .....	57
・視覚障害者ガイドヘルプ研修 .....	59
・ALC（アクセシビリティリーダーキャンプ） 平成29年度春 .....	61
・ALC 平成30年度サマーキャンプ .....	63
2.4 内部活動	
・平成30年度ピア・サポーター総会 .....	66
第3章 特別インタビュー 「PS利用者の声」 .....	69
参考資料 PS学生名簿 .....	71

## 第1章 はじめに

### 1.1 九州大学障害者支援ピア・サポーターとは

九州大学障害者支援ピア・サポーター（以下、PS）とは九州大学においてアクセシビリティを実践し、高めていく人材のことである。インクルージョン支援推進室の指導の下、情報保障や学習サポート、入学式等行事でのサポート等の活動を行っている。また九州大学障害者ピア・サポーター制度によってPSはシニアピア・サポーター学生（以下、シニアPS）とジュニアピア・サポーター学生（以下、ジュニアPS）に分かれている。シニアPSはアクセシビリティリーダー育成協議会認定資格1級取得者（アクセシビリティリーダーについては次項を参照）であり、ジュニアPSのマネジメントや指導、研修の企画を担う。また、ジュニアPSは障害者支援や啓発活動を行う。

参考：インクルージョン支援推進室

<http://www.chc.kyushu-u.ac.jp/organization/barrierfree.html>

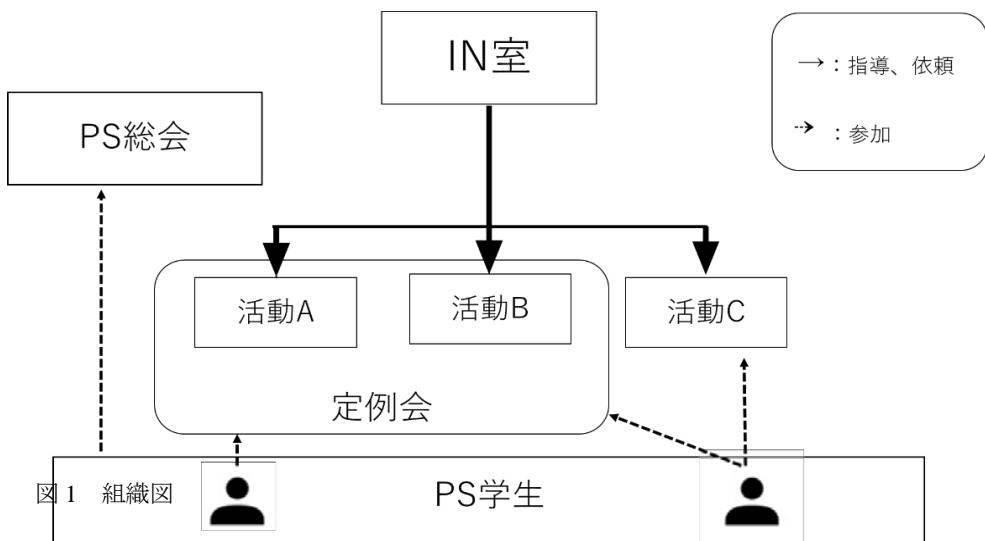
### 1.2 アクセシビリティリーダーについて

アクセシビリティリーダー（以下、AL）とは障害の有無や身体特性、年齢や言語・文化の違いに関わらず、情報やサービス、製品や環境の利便性を誰もが享受できる豊かな社会を創出する知識・技術・経験とコーディネート能力を持った人材である。また、アクセシビリティリーダー育成協議会が認定する資格として1級アクセシビリティリーダー、2級アクセシビリティリーダーがある。これらの資格はアクセシビリティリーダー育成協議会が実施する試験合格者に対して大学等の推薦を受けて認定される。九州大学において1級ALはシニアPSの要件となっている。

参考：アクセシビリティリーダー育成協議会、<https://al-pc.jp/web/>

### 1.3 組織

PS 学生は九州大学インクルージョン支援推進室の教員の指導の下、活動を行う。活動ごとにリーダー、サブリーダーを置き、彼らのマネジメントを中心に活動している。活動ごとに参加者が集まって活動を進める活動班もあるが、学生が希望する活動に流動的に参加できるよう定例会を設けている。週に 1 回全員が伊都キャンパスの PS ルームに集まることで参加者は活動を選択することができる。また、PS 学生は前後期にそれぞれ 2 回開催する PS 総会への参加が義務付けられている。(図 1) 総会では情報共有や PS 活動の方針決定を行う。詳しくは 2.4 「PS 総会」(p.66)を参照



## 1.4 年間活動表

2017年3月から2018年2月までの活動実績。活動の分類については次項を参照。

## 第2章 活動報告

第3回PS総会にて、PS内の活動を以下の4つに分類することとした。

A:支援活動

直接障害学生の支援や学内環境の調査等が該当する。

B:啓発活動

学内外に向けた情報発信や各種啓発活動が該当する。

C:研修活動

PS学生の支援技術向上、知識獲得のための活動。

D:内部活動

PS内で完結する活動、主としてPS総会。

## 【PC ノートテイク】

文責：林実咲、宮城実佳

**概要**：聴覚障害のある人、瞬時に聴覚的な情報を理解することが難しい人を対象に、大学の講義などを文字に起こすことで目に見えるようにする活動である。前期は伊都キャンパス、箱崎キャンパスで計3グループに分かれて週に1回の活動をし、後期は伊都キャンパスで3グループに分かれて活動している。今のところ授業でノートテイクをするように要請されることは少ないが、今後支援が必要な学生が入学して来た場合に備え、活動している。また、ノートテイクの要請が来た場合も、実際に活動できるノートテイカー数が少ないため、支援ができない場合があるという問題点もある。今後はティマー数を増やし、実際に授業でPCノートテイクができるようにしていきたい。

### 1. 目的

聴覚障害学生や聴覚的な情報を瞬時に理解できない学生のために、授業を文字化することで、その場にいる全ての人間が同じ程度の情報を共有できるよう、情報保障をするため。

### 2. メンバー

リーダー：宮城実佳、林実咲

班員(参加者)：荒木ゆうか、伊東和奏、大川優生、落悠馬、小山純奈、貞方栞、筒井優菜

### 3. 今年度活動した内容

#### (1)活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
5月11日	連携入力練習	箱崎キャンパス402	2
5月15日	連携入力練習	伊都キャンパス1304、箱崎キャンパス講義棟209	3
5月16日	PCノートテイク練習	伊都キャンパス2017	2
5月18日	連携入力練習	箱崎キャンパス402	3
5月22日	UDトーク練習	伊都キャンパス1304、箱崎キャンパス講義棟209	3
5月25日	UDトーク練習	箱崎キャンパス402	2
5月29日	単独入力練習	伊都キャンパス1304、箱崎キャンパス講義棟209	3
6月1日	単独入力練習	箱崎キャンパス402	2
6月5日	連携入力練習	伊都キャンパス1304、箱崎キャンパス講義棟209	3
6月8日	連携入力練習	箱崎キャンパス402	4
6月12日	連携入力練習	伊都キャンパス1304、箱崎キャンパス講義棟209	3
6月15日	連携入力練習	箱崎キャンパス402	2
6月19日	タイピング練習	伊都キャンパス1304、箱崎キャンパス講義棟209	4
6月22日	タイピング練習	箱崎キャンパス402	1
6月26日	単独入力練習	伊都キャンパス1304、箱崎キャンパス講義棟209	3
6月29日	遠隔会議	箱崎キャンパス演習室	2

日程	活動内容	場所	人数
10月16日	連携入力練習/動画集め	伊都キャンパス1305	2
10月19日	連携入力練習/動画集め	伊都キャンパス中央図書館演習室	2
10月23日	連携入力練習/UDトーク練習	伊都キャンパス1305	4
10月29日	連携入力練習/UDトーク練習	伊都キャンパス中央図書館演習室	2
10月30日	連携入力練習/卒業式振り返り	伊都キャンパス1305	1
11月2日	連携入力練習/卒業式振り返り	伊都キャンパス中央図書館演習室	2
11月5日	連携入力練習/卒業式振り返り	伊都キャンパス中央図書館演習室	2
11月6日	連携入力練習/卒業式振り返り	伊都キャンパス1305	2
11月9日	連携入力練習/入学式振り返り	伊都キャンパス中央図書館演習室	2
11月12日	連携入力練習/入学式振り返り	伊都キャンパス中央図書館演習室	2
11月13日	連携入力練習/倫理面の学習	伊都キャンパス1305	1
11月16日	連携入力練習/倫理面の学習	伊都キャンパス中央図書館演習室	2
11月19日	連携入力練習/倫理面の学習	伊都キャンパス1305	2
11月20日	連携入力練習/機材の使い方を学ぶ	伊都キャンパス1305	2
11月26日	連携入力練習/機材の使い方を学ぶ	伊都キャンパス1305	2
11月27日	連携入力練習/実務マニュアル作成	伊都キャンパス1305	1
11月30日	連携入力練習/実務マニュアル作成	伊都キャンパス中央図書館演習室	2
12月3日	連携入力練習実務/新規PSの指導マニュアル作成	伊都キャンパス1305	3
12月4日	連携入力練習/実務の動きをまとめる	伊都キャンパス1305	1
12月7日	連携入力練習/実務の動きをまとめる	伊都キャンパス中央図書館演習室	3
12月10日	連携入力練習実務/新規PSの指導マニュアル作成	伊都キャンパス1305	3
12月11日	タイピング練習	伊都キャンパス1305	2
12月14日	タイピング練習	伊都キャンパス中央図書館演習室	3
12月17日	活動報告書作成	伊都キャンパス1305	3
12月18日	活動報告書作成	伊都キャンパス1305	2

## (2)活動概要

### (i)入力練習

ホームボタンを覚える練習から始まり、タイピング無料ソフトや、IPtalk というアプリを使用して文書を打つ練習をした。動画を見ながら実際と同様に単独入力（授業の内容を要約しながら1人でパソコンに入力すること）、連携入力（2つ以上のパソコンを接続し、授業の内容をそのまま入力すること）の練習を行った。単独入力では、タイプミスやスピードを課題と考えている人が多かった。連携入力では、短いスパンで打っていくことができつつある人と、その点を課題に感じている人がいた。またファンクションキー（IPtalk では F キーに言葉を登録でき、よく出て来る語句を登録することで、F キーで代用できる）を有効に使っていると感じている人が多かった。問題点としては、パートナーと打つ内容が重なったときの対応や、入力中に相手の動きをよく見ることができていない、句読点を打てていないなどの点が挙げられた。それぞれ課題と感じているものが異なるため、毎回自己評価シートを記入し、自己の PC ノートテイクを振り返った。（図 1）

### (ii)マニュアル作成

新しい班員が入ってきた際に、PC ノートテイク班員がどのような手順で教えていくのかについて、マニュアルを作成した。例えば使ってみてよかつた動画・PC ノートテイクには向かない動画の紹介や、入力の際に気を付ける点などをマニュアル化している。（図 2）

### (3). 動画選び

動画サイトから大学の講義動画を検索し、リンクをまとめ、練習動画表を作成している。練習動画表はPCノートテイク班内で共有しているGoogleドライブに保存されており、曜日ごとに図3をもとに動画を選択し、連携入力練習を行っている。図3には動画のURL、動画時間、話者数、テーマ、単語登録(F1キー登録)、動画内容、動画の良い点、動画の悪い点、動画練習時の注意について簡単にまとめて記載されている。練習時には動画内容をもとに動画を選択できるようになっている。

### (4). PCノートテイカー増員計画

今年度は他のピアサポート活動と共に新入生ガイダンスを行い、新規メンバーを募集した。PCノートテイクは名前を聞いただけでは想像しづらい活動であるため、新入生ガイダンスでは連携入力のデモンストレーションや体験コーナーを設けた。また、ソーシャルネットワークを使った広報活動や、新入生へのビラ配りなども行った。

### (5). 授業のPCノートテイクをする

PCノートテイカーチームが少なく、また今年度は要請数も少なかったため、活動としては多くなかった。

### (6). 式典情報保障

今年度の入学式(2018年4月4日)において、式典での情報保障を提供する機会を得ることができた。椎木講堂舞台裏にPCノートテイク用の機材を設置し、式典の映像や音響を担う業者と相談しながら映し出される画面の枠や文字数を調整することや、原稿文をIPTalk用に加工する作業など、事前準備が非常に重要なことが明らかになった。これらの式典情報保障については、細かな画面サイズ設定、文字サイズ設定などの操作設定について記録を残した。また、参加者からの要望や反省点などをまとめたものに加えて、聴覚障害学生が実際に式典での情報保障についてどう感じたかをまとめたものを記録に残した。



図1 入力練習



図2 マニュアル作成

動画名	URL	動画時間	話者数	テーマ	単語登録	動画内容	動画の良い点
NHK高校講座 現代文「私」という自分	<a href="http://www.nhk.or.jp/kokkoza/library/radio/r2_genbur/archive/chapter003.html">http://www.nhk.or.jp/kokkoza/library/radio/r2_genbur/archive/chapter003.html</a>	20分	2	T/I・長谷川達哉・筆者		高校生向けラジオ授業。エッセイ朗読と解説を繰り返す。	朗読部分がゆっくりやすい
「魔法の世纪」と「教育」	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=JfFkLjPmzUw">https://www.youtube.com/watch?v=JfFkLjPmzUw</a>	1時間13分	1	コンピュータ		大学生向け授業	はっきり喋ってくれる
【第1部】刑法模擬講義90分【原孝至先生】法科大学院入試に向けた基本的な試験問題の扱い方の授業	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=JfFkLjPmzUw">https://www.youtube.com/watch?v=JfFkLjPmzUw</a>	1時間25分	1	義務教育・刑法		法科大学院入試に向けた基本的な試験問題の扱い方の授業	youtubeは1.75倍速
葛西康徳「古代ギリシャの三つの無駄?」	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=KQDgXWzqCnA">https://www.youtube.com/watch?v=KQDgXWzqCnA</a>	53分	1	古代ギリシアの歴史		東京大学の公開授業。大学生向け	比較的平易な口調
NHK高校講座 世界史 ローマ帝国	<a href="http://www.nhk.or.jp/kokkoza/library/worldhistory/rooma/index.html">http://www.nhk.or.jp/kokkoza/library/worldhistory/rooma/index.html</a>	20分	2	ローマ帝政		高校生向けテレビ講座。シリーズもの。	テレビ番組なので、面白い
同志社大学 講義「良心」、第1回「国際政治と良心」	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=OOGdVtGZBxw">https://www.youtube.com/watch?v=OOGdVtGZBxw</a>	1時間25分	1	民主主義・國際		大学生向け授業	はっきり・ゆっくり喋る
学びの公認2015 行政訴訟と司法権の限界(行政訴訟編) 吉川ひろの社会学講義:歴史と現実	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=OOGdVtGZBxw">https://www.youtube.com/watch?v=OOGdVtGZBxw</a>	1時間3分	1	法律		大学生向け授業	0.75倍速だとタイプ
神の授業 吉川ひろの社会学講義:歴史と現実	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=YRKtJ_Q7gJ">https://www.youtube.com/watch?v=YRKtJ_Q7gJ</a>	54分	1	日本史		近畿地方の歴史と文化	0.75倍速だととても
早稲田大学のなにか	?	10分	2	経済		高校受験生向け	高校受験生向け
平成29年度九州大学最終講義【医学研究院・外須美圭士准教授】	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=YGHy7NvxyQ">https://www.youtube.com/watch?v=YGHy7NvxyQ</a>	1時間10分	1	医学			
京都大学教育学研究科教育学研究科Special	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=time_continue=2091">https://www.youtube.com/watch?v=time_continue=2091</a>	2時間22分	1+a	教育学/心理学	T/S	修士課程で学者向けの講演。パワポなし。時々板書。教師が1対1で生徒に質問します。	
京都大学経済学研究科今久保和生教授最終講義	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=b5wY1FLb4wk">https://www.youtube.com/watch?v=b5wY1FLb4wk</a>	1時間30分	1	経済			ゆっくりめ
九州大学 高校生のための文学部講義							
筑波大「大学と学問」	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=time_continue=6018">https://www.youtube.com/watch?v=time_continue=6018</a>	1時間6分					
筑波大 大学での数学の学び方のアドバイス	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=time_continue=18v41">https://www.youtube.com/watch?v=time_continue=18v41</a>	41分					
同志社大学小原克博教授「イスラームの誕生と発展」	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=IyJ7Y7nUjk">https://www.youtube.com/watch?v=IyJ7Y7nUjk</a>	1時間20分	1	歴史			
龍谷大学 社会学	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=time_continue=2784">https://www.youtube.com/watch?v=time_continue=2784</a>	29分				0.7倍速でちょうどいい。数字が多い。	
早稲田大学 法学部講義	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=tJ7yYYewVQ">https://www.youtube.com/watch?v=tJ7yYYewVQ</a>	31分					
経済学試験対策講座一回目(1/3)「らくらくマイクロ経済学」	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=K8p1lgqjZQw">https://www.youtube.com/watch?v=K8p1lgqjZQw</a>	54分	1	経済			
関西大学 オープン講座「人生に、文学を」小川洋子LECTurer 教書者「個人情報保護法改正 無料公開解説」	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=IWTloEBGwDA">https://www.youtube.com/watch?v=IWTloEBGwDA</a>	1時間21分				本を読みながらが前提。文学作品に関する授業であり、言葉一言一句全く同じでない。表現のニーズ・アンスの違いが出てきます。	
豊橋田大学政治経済学部模擬講義「アベノミクス私たちの生活はどう変わったか?」	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=c-CXFr8CVh">https://www.youtube.com/watch?v=c-CXFr8CVh</a>	1時間27分	1	法律			
池上彰の現代史講義第6回「中国と台湾の対立」	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=Glmbl9xyUJ">https://www.youtube.com/watch?v=Glmbl9xyUJ</a>	41分	1	政治			
学びの公認2015 年非行と少年法改正―刑法	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=uy2Xqah9je">https://www.youtube.com/watch?v=uy2Xqah9je</a>	1時間40分	1	国際			
171207 心理学4社会心理学	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=oEnVUlv8k0">https://www.youtube.com/watch?v=oEnVUlv8k0</a>	1時間30分				教員と生徒との掛け合いが多い。	ゆっくりめ 話すのがゆっくり

図3 練習動画リスト 図の右側に「画像の良い点」「利用時の注意」も記載している

#### 4. 活動を振り返って

今年度から始めた PC ノートテイカーの中には技術が十分に身についていない学生もいるため、今後も練習を続けていきたい。また、後期からは、新しく入る PC ノートテイカーへの指導マニュアルの作成に取りかかっている。毎週の活動は、練習を主に行っており、支援として PC ノートテイクを実践することは少なかった。原因としては、ノートテイカーが少なく、出動要請が来てもノートテイカーたちのスケジュールと出動要請があった授業のスケジュールが合わず実践できなかつたことが挙げられる。また、実際の講義で十分な情報保障を行えるだけの技術力がまだ備わっていないことも課題である。日頃の練習でスキルアップを図ると共に、積極的に実践活動を行うことで改善していきたい。来年度は特にノートテイカーの増員を図りたい。支援対象者 1 人に対し、ノートテイカーが 20 人必要であるにも関わらず、現在活動しているのはたった 9 人である。技術のある人が必要なのは当然だが、それ以前に、ノートテイクに興味を持つてくれる人を少しでも増やし、テイカー不足のために支援に入れないとすることがないようにしたい。そのために、説明会などの広報活動を積極的に行っていきたい。

昨年度の卒業式、今年度の入学式において式典情報保障を行った。式典ではあらかじめ用意された原稿を加工し、専用ソフトウェアに読み込ませる作業が重要になり、前日の準備が非常に重要なものとなることがわかった。また、式当日には急な原稿変更や、加工データ以外の言葉を修正して入力する作業などがあり、臨機応変に対応していかなければならない。通常の授業で用いられる連携入力のやり方とは異なる式典情報保障について、今後も実践を通して記録に残し、知見を蓄積していくことが求められる。

今後の課題として PC ノートテイク班内での情報共有、進捗状況の確認が挙げられる。今年度は 3 班に分かれての活動であったため、班ごとに進捗状況が変わらないように、事前に回ごとの練習内容を細かく設定し、全体に共有する対策を取っていた。また、毎回の練習の終わりには回ごとの達成目標にチェックを付けてインターネット上のフォームから回答し、振り返りを行えるようにした。さらに、月に 1 回ランチミーティングを開催し、班員全員が集まって情報共有する時間を取ることにした。しかしながら、リーダーが各班の進捗状況を十分に把握できたとは言えず、全体でのメンバー同士の情報共有についても課題が残った。全体ミーティングの回数を増やすことも考えられるが、メンバーの予定を合わせて日程を調整することは現実的に難しい面もある。今後は IN 室とも相談の上、PC ノートテイク班員が全体で集まる日程を調整していく必要があると考えられる。

## 【バリアフリーマップ】

文責：川上里以菜、森下裕

**概要：**現在、九州大学が推進するインクルーシブ社会の実現を各キャンパスのバリアフリー マップ（以下、BMと表記する）作成を通じ、その一端一旦を担う。平成30年度の活動としては、伊都地区のウエストゾーンの実地調査、大橋・病院キャンパスのデータ化作業、センターゾーンのBM補正作業、及び他大学との交流が挙げられる。次年度は、引き続き作業を継続する事とする。

### 1. 目的

人々の交流の場、とりわけ公共施設、教育機関においては、多様な人種・障害種を想定したBMの作成が求められる。全ての人に対して機会の均等公正を担保し、公平な公共空間を維持しあうことの一端を担うことがBMの意義であり、最大の目的である。

### 2. メンバー

リーダー：川上里以菜、森下裕

メンバー：筒井優菜、村上日香、川波花音

### 3. 今年度活動した内容

#### (1)活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
2019/8/6	大橋キャンパス実地調査	大橋キャンパス	3
2019/8/7	大橋キャンパス実地調査・病院キャンパスと箱崎キャンパスのBMデータ作業	大橋キャンパス	3
2019/8/20	長崎国際大学との交流会	大橋キャンパス	3
2019/10/18	初回ミーティング(1年生)	中央図書館	3
2019/10/24	第2回ミーティング(主要メンバーのみ：伊都)	PSルーム	6
2019/10/31	第3回ミーティング：今後の日程の策定作業	PSルーム	7
2019/11/7	イラストレーター講習会	PSルーム	8
2019/11/8	実地調査デモンストレーション	ウエスト1号館周辺	7
2019/11/13	実地調査	ウエストゾーン1、2号館周辺	5
2019/11/14	第4回ミーティング	PSルーム	9
2019/11/21	第5回ミーティング	PSルーム	8
2019/11/28	第6回ミーティング	PSルーム	7
2019/12/5	実地調査及び清書作業	ウエスト2号館周辺	10
2019/12/12	第7回ミーティング	PSルーム	6
2019/1/9	第8回ミーティング	PSルーム	7
2019/2/15	熊本大学との交流会	伊都キャンパス	9

## (2)活動概要

### (i)大橋キャンパス実地調査

3人という少人数ではあったが、1日半かけて実地調査を行った。3人中2人が大橋キャンパスで授業を受けている学生だったため、スムーズに行うことができた。途中、羽野先生も参加してくださり、建築面から見た意見など、学生だけでは考えられないことも教えてくれ、勉強になった。

### (ii)長崎国際大学との交流会

長崎国際大学さんが来られるということで、図書館など交流場所を手配し、アイスブレイクなどを行ってから全員で大橋キャンパスを回った。BM作成の際にどういったところを見ていくのか、人数はどのくらいが適当かなどを話し合った。また、長崎国際大学さんのメンバーの中に車椅子を使用する学生ユーザーの方がいらっしゃって、自分たちだけでは気付けなかったことを教えてくれた。最後はみんなで感想を言い合い、終了した。他大学の活動を知ることのできるいい機会だった。

### (iii)初回ミーティング

後期から活動に参加する1年生メンバー3人で集まり、今後の活動の大まかな予定と、活動方針、到達目標の設定を行った。

### (iv)第2回ミーティング

水曜6限目の定例会において、BM経験のある上級学年のPSメンバーと、羽野先生を交えてのアイスブレイク及び、情報共有を行った。班としての後期の活動はこの日が最初となった。



図1 ミーティング様子

### (v)第3回ミーティング

水曜6限目の定例会において、BM班は直近10月、11月分の予定の策定作業を行った。この際に、イラストレーターを扱える生徒が少ないとのご指摘

### (vi)イラストレーターIllustrator講習会

BM作成にはIllustratorを使用する必要があったが、Illustratorを使ったことのない学生も多かったため、時間を見つけてはイラストレーターIllustratorの講習会を行うこととした。

定例会の時間で、BM班に属さない学生も参加できる、イラストレーターIllustratorの初級講習会を行った。時間の制約もあり、カリキュラムを完遂することが出来なかつた事が反省点であり、今後、このように専門性の高い活動を定例会の場で行うのはどうだろうかとのご指摘もあった。



図2 講習会の様子

### (vii)実地調査デモンストレーション

川上主導のもと、実際に実地調査を行うオンザジョブトレーニング形式で、調査で用いる道具、チェック項目等の確認を行った。今年度のBM班の実地調査活動の初日であり、調査範囲としては、ウエスト1号館の周辺、及び1号館内部1階部分が該当する。

### (viii) 実地調査

前回の調査範囲の続きを調査した。調査範囲としては、ウエスト1号館2階部分、及び図書館周辺が該当する。活動に当たっては、自分自身の経験不足で、時間内に調査を完遂させることは出来なかつたことが反省点として挙げられる。

### (ix) 第4回ミーティング

水曜6限目の時間を用いて、設備改善の報告を行った。具体的には、調査中に見つかった設備の不具合もしくは、アクセシビリティに欠けると考えられる学校構内の設備をスライドショー形式で報告した。

### (x) 第5回ミーティング

先週に引き続き、調査を行った箇所の報告、及び調査内容の集約、清書作業を行った。ここで、調査項目のマーク表示の種類をより細分化すべきとの意見があり、今後作業に従事するにあたって、学生の意見が反映されるように努めなければと痛感した。

### (xi) 第6回ミーティング

水曜6限目の時間を用いて、今後の調査範囲と、調査日程の策定作業にあたつた。活動開始前には、ウエストゾーンの実地調査完了を目指に掲げていたが、目標をウエスト1, 2号館周辺の実地調査の完了に変更することとした。

### (xii) 実地調査

ウエスト2号館及び周辺の施設の実地調査を行つた。具体的には、理系食堂、ウエスト2号館、学習プラザ、図書館を調査した。人数が10名前後そろつたので、二手に分かれ効率よく調査することが出来た。

### (xiii) 第7回ミーティング

前回の実地調査の報告を水曜6限目の時間を利用して行った。2018年最後の活動日ということで、来年の活動予定の策定も同時に行つた。



図3 実地調査の様子

### (xiv) 第8回ミーティング

新年最初の活動であった。活動内容としては、センターゾーンの補正作業を行つた。また、2月に予定されている熊本大学との交流に向けてもタイムテーブル等の計画をした。

### (xvi) 熊本大学との交流会

開始前は、小雨が降つており予定通りの進行ができるか不安視されたが、天気にも恵まれ無事開催するに至つた。各自のPS活動についての紹介や、実際に屋外に出て実地調査時の調査項目の確認作業を行つた。交流を通して、熊本大学さんとお互いのもつ見識を共有する至り、非常に有意義な交流の場となつた。



図4 熊本大学の学生と

#### 4. 活動を振り返って

大橋・病院：今年度目標としていた病院キャンパスの BM 完成にはあと一歩及ばず、残念だった。あとは先生方と相談して完成を目指すところであるため、焦らず進んでいき、納得の行く BM に仕上げたい。大橋キャンパスに関しては、実地調査は上級生で行なったが、データ化作業は 1 年生に任せ、1 年生の能力を伸ばすことができたように感じる。この先、十分頼もしい存在になるだろうと感じた。〈川上〉

伊都：今年度は、当初の目標であるウエストゾーンの実地調査の完了には至ることなく、非常に悔いが残る苦い結果となった。来年度以降の活動をより円滑にするために、メンバーそれぞれの役割の細分化、スケジュール、タイムテーブルの調整が必要であると感じた。一方で、今年度の活動は、PS 学生の協力が無しでは達成されるものではなかった、つまり、活動を通して PS 学生が一体となり BM 作成に尽力してくれたことに対してこの場を借りて感謝を述べたい。〈森下〉

## 【移動支援】

文責：大野愛哉

**概要：**支援要請に応じて、AL 資格を持つ PS 学生が、車いすを使用している学生の健康診断の際の移動の直接支援を行った。PS 自身の実践的な支援スキルの獲得のみならず、支援の際に重要となる様々な気づきが得られた活動であった。

### 1. 目的

本活動は、支援要請者の移動の際のサポートを行うことで、学内で活動する際の障害を取り除くことを目的としている。また、障害学生に対し、直接支援を行うことで、PS 自身が AL 資格取得や講習会などで培った支援の知識を実践で経験し、更なる支援スキル向上を目指す。

### 2. メンバー

大野愛哉

### 3. 今年度活動した内容

#### (1) 活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
4/18	健康診断の際の移動支援	伊都キャンパス	1

#### (2) 活動概要

今年度は、車いすを利用使用している学生の健康診断時の移動支援という、上記の一事例のみの活動であった。以下はその一事例について詳細に報告する。

##### (i) 活動内容

車いすを使用する学生の健康診断の際、IN 室から、健康診断の会場まで車いすを押し、移動支援を行った。健康診断会場に到着後は、会場内の移動のサポートを行い、支援対象者の要請に応じて、荷物を取る、通路を確保するなどを行った。写真は移動支援の様子である。IN 室から健康診断の会場である稻森財団記念館までは、坂道や横断歩道を通る必要があり、また、健康診断会場の通路はとても狭いため、PS と支援対象者が適宜コミュニケーションを取り、必要なサポートを行っていく必要があった。



写真 1. 移動支援の様子

#### (ii) 活動結果

支援対象者とコミュニケーションを取りながら支援を行うことができたため、荷物を取る、場所を確保するなど、必要な支援を臨機応変に行うことができた。また、普段意識はできていなかつたが、健康診断の中にも様々なバリアが存在することに気づくことができた。バリアの一例として、通路がとても狭いこと・血圧測定器の高さが身長の低い人や座ることが困難な人のことを考慮されていないことなどが挙げられる。



写真 2. 移動支援の様子 2

#### 4. 活動を振り返って

実際に移動支援を行いながらキャンパス内を移動することにより、様々なバリアに気づくことができた。そして、今まで学んだ**ALAL**受験などで学んだ知識が、実際に直接支援を行うことで、より実践的な支援のスキルとして身についた。また、支援中に対象者とコミュニケーションを取ることの重要性にも気づくことができた。今年度は1回のみの活動であったが、今後も申請があった際には積極的に活動していきたい。

## 【地域連携「わくわく！大学たんけん隊」】

文責：大野愛哉

**概要：**前原地域の小学校特別支援学級（情緒）の児童が、校外学習で九州大学伊都キャンパスを訪れた際、大学を探検するというコンセプトで、児童と交流しながら大学施設の見学を行った。準備の段階で、発達障害についての勉強会を行い、発達障害児童との関わり方を学んだうえで、当日の配慮等を考慮したプログラムを考案した。PS と、地域の小学校との連携が取れたことのみならず、PS の支援スキルの向上にもつながった活動であった。

### 1. 目的

本活動の目的は以下 3 点である。まず、本活動を通して、発達障害児童が「大学」というものに興味をもつききっかけとなる体験を行うことである。そのためには、大学において児童が“楽しい”と思える体験をすること・大学がどのような場所なのかについて少しでも知る機会となることが重要である。2 点目に、PS が地域地元の小学校との交流活動によって、今後地域と連携していく体制作りを行うことである。本活動の対象者は、九州大学伊都キャンパス近郊の糸島市立前原小学校の児童であり、今後地域支援を行っていくにあたって、地元の小学校や児童とのつながりを作る重要な機会となった。3 点目は、PS 自身が発達障害児童と関わることにより、支援のスキル・経験を獲得することである。現在、大学において発達障害学生への支援は重大な課題となっているが、九州大学において、PS が発達障害学生への支援を行うということは未だ行われていない。今回は特別支援学級（情緒）の発達障害児童が対象であったため、発達障害学生の学童時点での状態像を実践的に知る重要な経験の機会となった。

### 2. メンバー

リーダー：大野愛哉、安部咲紀

メンバー：上野麻衣、原田英、荒木ゆうか、下田成大、山口知昌

### 3. 今年度活動した内容

#### (1) 活動スケジュール

当日：2018年11月30日（金）13:00～14:30

日程	活動内容	場所	人数
10/17	プログラム案出し	伊都センターゾーン PS ルーム	5
10/19	リーダー会議	伊都センターゾーン PS ルーム	2
10/24	プログラム検討	伊都センターゾーン PS ルーム	6
10/31	タイムスケジュール検討	伊都センターゾーン PS ルーム	4
11/2	図書館との打ち合わせ	中央図書館	2
11/7	プログラム検討	伊都センターゾーン PS ルーム	4
11/14	発達障害についての勉強会	伊都センターゾーン PS ルーム	5
11/16	受講生への企画説明	伊都イースト1号館	1
11/21	児童情報確認・当日の流れ決定	伊都センターゾーン PS ルーム	4
11/28	ルート確認・リハーサル	伊都センターゾーン・イーストゾーン	6
11/30	「大学たんけん隊」当日	伊都センターゾーン・イーストゾーン	7

## (2)活動概要

### (i)プログラム・タイムスケジュール検討

「児童に大学に興味を持ってもらう」「児童に大学において“楽しい”と思える体験をしてもらう」という目的のもと、当日のプログラムやタイムスケジュールについて、検討を重ねた。検討は週1回、PS定例会にて行い、当日参加以外のメンバーも参加し、案を出し合った。企画にゲーム性をもって児童に楽しんでもらうため、「大学を探検する」というコンセプトで、児童に様々なミッションを課し、それをクリアしてもらおう、というプログラムで決定した。当日のタイムスケジュールを表1に示す。表1に表記しているように、児童は4班に分かれており、一度に同じ場所に人が固まらないよう、1・2班と3・4でミッションスポットを変えるなど工夫した。また、プログラムの目玉として、2018年のキャンパス移転に伴い新しくオープンした中央図書館の見学も入れ込んだ。児童の特性については、事前に小学校から情報を得ており、プログラムの考案にあたっては、適宜児童の発達障害の特性を鑑みつつ、配慮の上決定した。

表1 大学たんけん隊 タイムスケジュール

	1・2班	3・4班	
13:00	全体説明・自己紹介		13:00
13:10	センターゾーン出発 ↓ ゲートブリッジ✿	センターゾーン散策 「九州大学」石碑✿ 総長胸像✿ ゲートブリッジ✿ ↓	13:10
13:30	中央図書館到着	↓	13:30
13:40	中央図書館見学(13:30~13:50)✿	中央図書館到着	13:40
13:40	トイレ休憩	トイレ休憩	
13:50	イーストゾーンへ移動 総長胸像✿ カブトガニ(イースト1号館)✿ ↓	中央図書館見学(13:50~14:10)✿ ↓ イーストゾーンへ移動 ↓	13:50
14:20	ビッグスカイ集合✿		14:20
14:30	終わりの会		14:30

✿→ミッションスポット

※1・2班は13:30に図書館集合、3・4班は13:50に中央図書館集合

(ii)中央図書館との打ち合わせ

プログラムの目玉である図書館見学については、IN 室より見学の依頼後、リーダーと図書館スタッフで連絡を取り、当日に向けて打ち合わせを行った。図書館側より、一般向けの見学コースのショートカットコースの提案があり、それに沿って見学を行うことで決定した。図書館内の各スポットの説明は、リーダーが図書館スタッフから説明を受け、それを PS が小学生向けに書き換えて、パネルを作成し、当日使用した。パネルの一例を図 1 に示す。

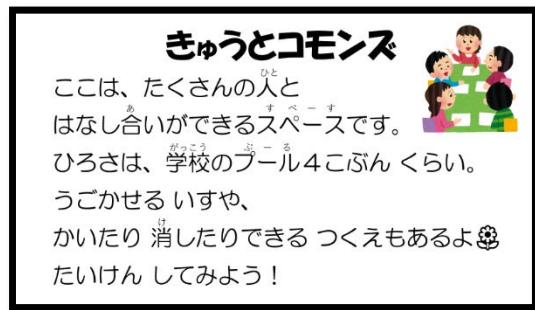


図 1 図書館見学の際に用いたパネル

### (iii) 発達障害に関する勉強会

現在 PS 活動において、発達障害学生への支援というものは行われておらず、本活動で発達障害児童と初めて関わるという PS も多かったため、事前に発達障害に関する勉強会を PS 内で開催した。IN 室の教員の監修のもと、臨床心理学を専攻する PS が講師を務めた。内容は、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害という 3 つ発達障害の障害特性と、その特性から引き起こされる難しさ、発達障害児と関わる際の留意点などである。写真 1 では、勉強会の様子を、図 2 では実際に使われたスライドの一部を示す。



<b>ASD児のむずかしさ</b>	<b>ADHD児のむずかしさ</b>	<b>LD児のむずかしさ</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>□人に注意が向くにくい</li> <li>□あいまいな言い方や慣用句が分からない</li> <li>□空気が読めない</li> <li>□決まり事をきっちりと守らないと気が済まない</li> </ul> <p>→することについて明確に具体的に伝える 例)「ほどほどの時間で」「きちんとやって」 →決まり事等は特性に合わせてこちらが調整することも</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□思ったことをすぐに言ってしまう</li> <li>□考える前に、気づいたら行動てしまっている</li> <li>□順番を待つことが難しい</li> </ul> <p>→悪気はなかったということを分かってあげる (子供同士のやり取りの場合はフォローを) →安全面には十分に配慮し、目を離さない →気持ちを落ちさせてあげるような行動を促す →自分の行動をモニターできていない場合は、気づきを促す声掛けを</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□文字を読むこと(書くこと)が難しい</li> <li>□話を聞いて理解することに時間がかかる</li> <li>□上手に話せない</li> </ul> <p>→特性に合わせて、情報の示し方を工夫する →ついていくつていなければ、個別にフォロー</p>

図 2 勉強会で使用したスライド (一部)

#### (iv) 「アクセシビリティ心理学講義Ⅱ」受講生への企画説明

本活動は、2018年度後期アクセシビリティ心理学講義Ⅱの授業の一環としても位置付けられており、当日はPSに加え、上記授業の受講生も共に活動を行った。受講生は、授業で学んだ発達障害の特性が、実際に関わる児童にどれほど当てはまるかということを実際の関わりの中で学ぶというPSとは別の目的のもと参加した。プログラム・タイムスケジュールが決定した時点で、リーダーが実際に授業に赴き、本活動の趣旨・PSの目的等を説明した。その際、受講生には事前に得ていた児童の特性の情報を参考した上で、どの班につきたいかの希望を取り、班分けを行った。写真2は説明時に使用した資料の一部である。



写真2 説明で使用した資料

#### (v) 「わくわく！大学たんけん隊」当日

上記のタイムスケジュール・プログラムで、当日の活動を行った。

当日は12:20にPSルームにPS・受講生が集合し、児童の特性やプログラム・タイムスケジュールの最終確認を行った。児童1人につき1名の受講生がつき、1班に1~2名のPSを配置した。各班には特別支援級の先生もついており、リーダー・IN室の教員は全体を把握しながら動くという役割を取った。児童には発達障害以外にも様々な特性（緘默、性同一性障害性別違和など）があり、個別の対応が求められたが、支援級の先生、教員のサポートもあり、配慮しつつ関わることができた。当日使用した、ミッションカードを図3に示す。

反省点としては、児童のミッションクリアがとても速く、図書館で待ち時間が発生してしまったことであった。全体を通して、楽しく過ごせている児童が多い印象であった。

後日、小学校から、児童の書いた感想を頂き（写真3）、図書館やゲートブリッジが楽しかったという感想が多く見受けられた。

PS内部、受講生からも、「児童と関わる上で難しい点は多かったが、楽しくかかわることができた」という声が多く挙がった。受講生・PSの中には、発達障害児童と初めて関わった感想として、座学でイメージしていた発達障害児とだいぶ印象が違ったと言った学生も複数おり、座学での知識のみではなく、実際に関わることで得られる経験的・実践的な知識を蓄積することの重要性を再確認できた活動でもあった。

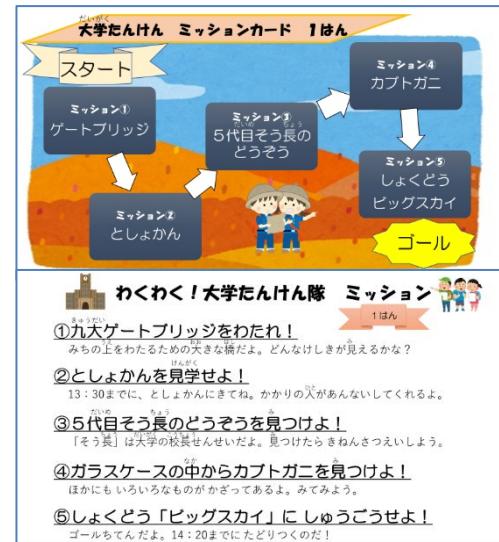


図3 当日使用したミッションカード

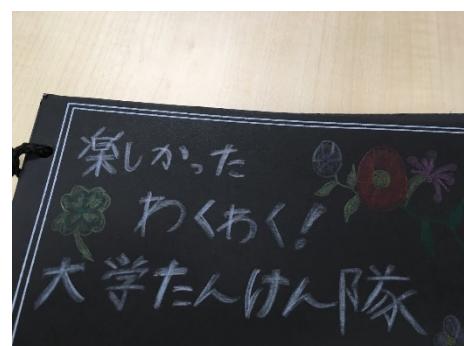


写真3 児童からもらった感想カード

## 5. 活動を振り返って

本活動は、今年度初の企画であったが、初めてということもあり、当日の児童の動きのイメージアップができていなかつたことが反省点であった。来年度以降の活動の際にには、予め（小学校に行くなどして）児童の様子を見たり、一緒に関わる機会があると、より豊かな支援活動ができると考えられる。今回、活動の際には糸島市教育委員会による視察もあり、今後他の特別支援級から交流の依頼がある可能性も考えられるため、今

年度の活動の反省点・改善点を来年度以降にしっかりと伝えることが重要であると考えられる。本活動の目的として挙げていた、3点①児童が大学に興味をもつきっかけとする②地域連携の基礎作り③PSの支援スキルの獲得は達成されたと考えられる。特に、3点目については、児童と実際に関わることにより多くのことを学べたため、今後の大学で行っていく支援にもつなげられると考えられる。

## 【パーソナルサポート（学習サポート活動）】

文責：松石真理子

**概要**：本活動では、就学上困難を抱えるのある学生に対する個別的な学習サポートを行った。九州大学 PS では本年度初めて導入された活動である。2 名の PS 学生が担当し、2 名の被支援学生に対して全 12 回のサポートを実施した。次年度以降、支援学生の養成や活動の周知など、さらなる活動の展開が期待される。

### 1. 目的

就学上困難を有するのある学生に対して同じ学生の立場から個別的な学習支援をすることを通じて、被支援学生の特性に合わせた学習方法の確立を手助けし、被支援学生の学校適応を促すこと。

### 2. メンバー

メンバー：大野愛哉、松石真理子

### 3. 今年度活動した内容

#### (1)活動形態

IN 室にて 1 回 1 時間のサポートを実施。1 対 1 で対応を行う。

今年度の利用学生は 2 名。全 12 回のサポートを実施した。

※詳細なスケジュールは被支援学生の個人情報保護のため割愛

#### (2)活動概要

パーソナルサポートは本年度はじめての取り組みであり、試験的に導入された。そのため、個人面接の経験を有する、臨床心理学を専攻する大学院生 2 名が担当した。

はじめに IN 室を通じて PS にサポートの依頼が入り、被支援学生の情報や状態像、利用目的を PS 学生が把握した。その後、実際に被支援学生と PS 学生が顔を合わせ、協議のうえで被支援学生の利用目的に合わせて活動計画を立案。計画に沿ってサポートを行った。サポートの具体例としては、レポート作成の手順を表などに示して可視化する、レポートの誤字脱字のチェックを行う等である。活動毎に PS は活動内容報告を行い、教員の指導・助言を受けた。

### 4. 活動を振り返って

もともと大学図書館などに学習相談窓口は設けられていたものの、人と接することに困難のある精神障害や発達障害を有する学生はそのような場に自ら足を運び、支援を受けることが難しいと思われる。しかし一方で、教員が個別に学習支援を行うことは、時間的コストや、他学生との平等性を考慮したところ実現は困難であると思われる。そのため、学生が同じ立場から学習の仕方などを考える今回の取り組みは、今後の精神障害や発達障害学生の修業就学環境を向上させる上で有用な取り組みであったと考えられる。実際、今年度の利用学生も、PS を利用することで、自分なりのペースで学習に取り組むことが出来ていたように思われる。

今年度活動する上で困難であったことは、実際にサポートを予定していても、被支援学生が直前になってキャンセルをすることが多かったことがあげられる。そのため、計画が変わってしまったり、PS 学生が実働に入らないのにもかかわらず IN 室に行かなくてはいけないことがあった。今後は、欠席連絡をする期限を設けるなど、被支援学生との間に一定の約束を設定していくことも必要であると思われる。しかし一方で、「無理なときにはいかなくてもよい」という気楽さも被支援学生がプレッシャーを持たずに活動をしていく上では必要であると思われる。計画通りには行かないことや、直前のキャンセルがあることも想定した上で、PS 学生は活動していく必要があると思われる。

現在は IN 室を利用している学生の中で要望があればサポートを実施していたため、このような活動が行われていることは学内に広く周知されていない。そのため、利用できる学生が少ない。今後、広く学内に周知をしていけば、より多くの学習上躊躇を感じている障害学生を支援できるようになると思われる。しかし一方で、現在は障害のある学生に対して個人面接を行うスキルをはじめから有している大学院生が対応にあたっているが、今後もし学習サポートの周知を行い、被支援学生が増えた場合、その他の PS 学生も支援者として活動に加わる必要がある。その際の、個人面接を行うまでの対応スキルをどのように研修していくのかという事が課題となる。このような活動に支援者としてかかわることは、支援学生自身が多様な人に接したり、改めて自らの学習方法について振り返る機会につながると思われる。今後活動を展開させていく上で、活動を周知する範囲や、支援学生の養成方法など、検討していくことが有用であると思われる。

## 【発達障害のある高校生向けのオープンキャンパス】

文責：鮫島優美子、原田英

**概要**：九州大学で、発達障害のある高校生向けのオープンキャンパスを行った。なお、まだ開催されていないため、ここでは開催するまでに議論・検討したことをまとめた。流れとしては、日時決定→場所・開催時間決定→プログラム概要決め→参加者募集のためのチラシ作成→参加者の情報を聞くためにフォーム作成→具体的なプログラム内容の検討→参加可能な学生の募集といった流れで進行していった。

### 1. 目的

近年、高等学校卒業者の大学進学率は上昇傾向にあり、平成29年には大学・短大進学者が54.8%と半数以上を占めている（文部科学省、2017）。大学は、興味関心のある分野で専門的に学び、自分の能力を発揮できる場となりうる一方で、それまでの生活と大きく環境が変わるものもある。特に発達障害のある高校生は、環境の変化に敏感で、未来のことを想像することが苦手であること、また自身の特性などから、大学という新しい環境に不安をもっていることが考えられる。その不安から大学進学を進路の選択肢から外してしまう可能性もある。しかし、近年、2016年施行の障害者差別解消法にて合理的配慮の不提供が差別として明文化されたこと等により、大学における障害学生支援の充実も急務となっている。つまり、障害のある大学生も、必要な支援を受けながら大学生活を送ることができる所以である。

そこで、九州大学ピアサポートPS一では、発達障害のある高校生向けのオープンキャンパスを開催する。大学進学を考える高校生が大学について知り、少しでも不安が解消されるような機会を作ること、また大学生活で困った際に頼る先を知つもらうことを目的とする。それによって、大学進学を考える高校生の進路選択の一助となることを目指す。また、九州内の高校に募集をかけることで、地域連携、高大接続のきっかけにもなる活動である。

### 2. メンバー

リーダー：鮫島優美子、原田英

メンバー：坂部洸太、大野愛哉、上野麻衣、松石真理子、川波花音、山口知昌、筒井優菜

### 3. 今年度活動した内容

#### (1)活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
12/12	富山大他大学学の実施例の共有	PSルーム	3
1/9	活動概要決め	PSルーム	2
1/16	チラシ・応募フォーム検討	PSルーム	6
1/30	タイムスケジュール決め	PSルーム	5
2/6	タイムスケジュール決め	PSルーム	5
2/13	タイムスケジュール決め	PSルーム	4
2/18	IN室と日程調整	PSルーム	5
2/20	プログラム内容検討	PSルーム	3
2/27	プログラム内容検討 当事者との顔合わせ	PSルーム	4
3/11	IN室との役割分担 ○マップ作製 ○案内板設置場所検討	PSルーム	7

## (2) 活動概要

### (i) 富山他大学の実施例の共有

九州大学で発達障害高校生向けのオープンキャンパスを行うのは初めての試みである。そこで、同じような取り組みをしている富山大学の例を参考に企画を進めていくこととした。毎年開催されている富山大学の「チャレンジカレッジ」について、今年度見学に行った学生から、内容が共有された。また、実際に見学した学生に対し、適宜質疑応答が行われながら、富山大学の例から取り入れたい点と、九州大学で独自に行いたいを良い点について議論を行った。また、この共有を受け、九州大学でオープンキャンパスを行う目的を改めて確認した。

### (ii) 活動概要決め

#### 前回での話し合いでの決定事項の確認

後、富山大学「チャレンジカレッジ」の例を参考にプログラムを決めた。その結果、①高校と大学の違いや進路選択について知るプログラム、②一週間の時間割を組んでみるプログラム、③大学生活で発達障害学生が困り得ることとその対処法について知るプログラム、④発達障害のある大学生から実際に話を聞くプログラム、⑤食堂や図書館等、大学の施設を体験するプログラムの大きく5つを行うことに決めた。また、この回でイベントの題名を「キャンパススイッチ」と決定した。由来としては、大学を知るスイッチを押すイメージ、大学を進路として選択する背中を押すイメージとして“スイッチ”という言葉を用いた。具体的な日時としては3/9（土）10時から行うことが決定した。最後に、施設利用体験（学食や図書館など）の際の配慮事項やどういった経路で回ってもらうかなどを、決定していった。

### (iii) チラシ・応募フォームの検討

仮案として作成されたチラシをもとに、どの情報が必要か、どれくらいのフォントで強調するか、適切かつ伝わりやすい文言は何か、などを検討した。また、応募フォームについては、どの情報を聞く必要があるかについて検討した。その結果、年齢、所属、性別（自認可）、連絡先（電話番号・メールアドレス）この企画の趣旨に同意するか、保護者氏名と同伴するかどうか、告知の有無について尋ねることが決まった。そして、次回応募フォームの作成されたたたき台を基に調整することが決まった。



図1 富山大学の例の共有の様子



図2 応募チラシ（日程変更前）

#### (iv) タイムスケジュール決め

3回にわたり、タイムスケジュールの検討を行った。各プログラムにおいて必要な時間から、タイムスケジュールを決定していった。この検討にあたり、当初のプログラムからいくつか追加や変更も生じた。その結果、行うプログラムとして最終決定したのは、①模擬授業、②時間割作成体験、③昼食・施設利用体験、④大学生活のヒント、⑤当事者の声の5つである。タイムスケジュールは以下の通り。

10:00~10:20	導入
10:20~11:20	模擬授業
11:20~11:30	休憩
11:30~12:30	時間割作成体験
12:30~13:30	昼食・施設利用体験
13:30~14:10	当事者の声
14:10~14:30	大学生活のヒント
14:30~15:00	アンケート

図1 タイムスケジュール



図3 タイムスケジュール決めの様子

#### (v) IN室と日程調整

3/9 同日にワークショップコレクションという2万人規模の子ども向けイベントが開催されるため、食堂や交通機関の混雑が予想されることなどから、参加者の障害特性を踏まえ、日程の延期や中止、延期にあたって延期後の日程で参加可能な学生がどれくらいか、などのマネジメントについて議論を行った。結果、活動の目的を達成するため、参加者の安全を保障するために、延期とした。

#### (vi) プログラム内容検討

新しい日程は、3/23の10時からとなる。それにかかる参加者への連絡等について確認したのち、各プログラムの内容詰めに入った。以下が各プログラムの目的と内容である。

##### ○導入

見通しを持ち、緊張を和らげることを目的とする。内容としては、挨拶、一日の流れの説明、自己紹介等を行う。

##### ○模擬授業

大学の授業を体感しながら、高校と大学の以外について学ぶことを目的とする。内容としては、大学についてのシステム説明をしたり、グループワーク等を通して大学について考えてもらったりする。

##### ○時間割作成体験

自分の関心のある授業を選べることを体感し、実際の自分のキャパシティを想像しながら1週間の予定を立てる経験することを目的とする。内容としては、1週間の時間割を作ってもらう。まず学部を決めて、実際の「授業時間割」（紙媒体の履修表）を見ながら授業を埋めていく。ディシプリン科目（教養科目）については、「基幹教育履修要項」を見ながら選ぶ。つづいてディシプリン科目の中で関心のある授業（主に選択した学部と関連の深い分野の授業）についてシラバスを見てみる。

##### ○昼食・施設利用体験

休み時間を自分で過ごす経験をすること、大学特有の施設を体験することを目的とする。内容としては、学食（メインダイニング）を利用し、終わり次第図書館等自由にまわってもらい、時間まで戻ってきてもらうようにする。

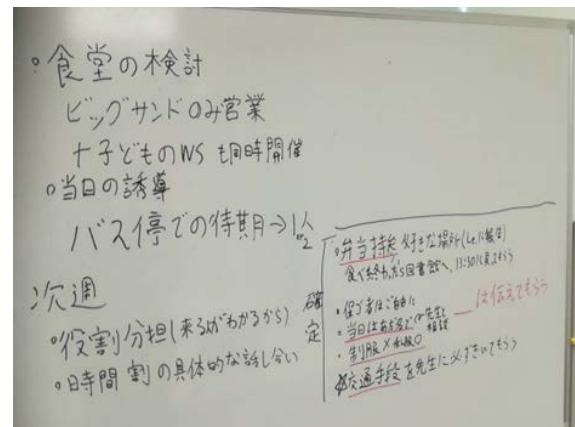


図4 3/9 開催によるリスクの検討

## ○大学生活のヒント

大学生活で困り得ることと対処法を聞き、学生支援の視点から相談する資源があることや、そこにどう繋がったかを知ることを目的とする。内容としては、学生支援の視点から目的のような内容を伝える。当初、大学生活のヒントを先に行い、当事者の声を後にする予定だったが、当事者の声の前にすることで、大学生活のヒントを総まとめとして参加者が受け止めやすくなるのではないか、という議論があり、当事者の声、大学生活のヒントの順に行うことになった。また、スライドの内容についても検討したが、当事者の声とつながる形で行うことになった。

## ○当事者の声

大学生活で当事者が困ったこととその対処を聞き、モデルを意識できることで、より現実的にイメージしてもらうことを目的とする。内容としては、当事者とサポート役の教員の対談方式で話してもらい、その後、質疑応答を行う。この方式については、学生でもさまざまな形を検討したが、当事者と直接顔合わせをした際、負担にならない形ということで対談方式になった。当事者に話してもらう内容としては、まず「大学生活で困ったこと」と、それについて「どこを頼り、どのように解決したか。」「どのように工夫した

(している) か。」についてお話しㄧただく。

「困ったこと」の具体的な内容については、特に高校生が不安に感じていることとして、人とのコミュニケーション、情報取得、レポート等の課題（作成や締切）、大学卒業後の進路などが挙げられていたため、それを参考に話す。すべてを網羅する必要はなく、自身が困らなかった項目は無理に話さなくてもよいので、話せる項目があれば触れてもらうようにした。教員からも適宜これに加えることとした。

### (vii) IN 室との役割分担

日程が迫ってきてることから、IN室の教員とPS学生での役割分担を見直した。教員の方で残りの企画と準備を行っていき、PS学生は名札作成、キャンパスマップの作製作製、案内板設置場所の検討といった準備と当日の実働を担当することになった。ミーティングでは、キャンパスマップの作製、案内板設置場所の検討を行った。

○マップ作製

秋にPSで行われた「わくわく大学たんけん隊」で使われたマップがあったので、それに必要な情報を付け足すこととした。主には昼食・施設利用体験の際に見るのであり、食堂から図書館の道に目印をつけたり、生協の場所を新たに示したりした。

### ○案内板設置場所検討

当日参加者が集合場所にたどり着きやすいよう案内板を設置するが、その案内板をどこに設置すればよいか、実際にバス停から教室までを歩き検討した。

#### 4. 活動を振り返って

現在まだ本番が終わっていない状況だが、ここまで反省として、班での動き出しが遅かったこと、プログラム内容を早い段階で目的を踏まえたうえで決定するべきであったこと、学生間や学生と教員間での情報共有がうまくできなかつたことなどが挙げられる。改善策としては、少なくとも半年前から企画を行うこと、目的決め→日程決め→プログラム決め→募集の順でしていくこと、話し合いで必ず議事録をとり共有すること、なるべく対面で共有をすることなどが挙げられる。

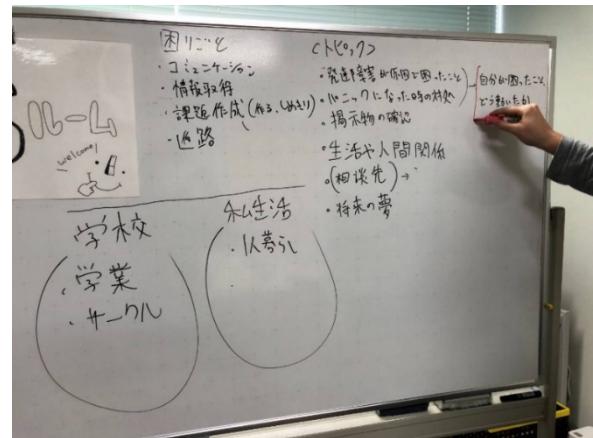


図 5 当事者へのオーダー決め

## 【Facebook】

文責：山口知昌

**概要**：Facebook の記事を通して、IN 室や PS 学生活動をより多くの人に知らせ、興味を持ってもらうことがこの活動の目的である。今年度は PS 学生活動の紹介を主軸として、記事総数 51 本を更新した。

### 1. 目的

学内において、IN 室や PS 学生活動を知らない学生は未だ多い。Facebook の記事を通して、IN 室や PS 学生活動について知ってもらい、より多くの人に、IN 室や PS 学生活動に興味をもってもらうことを目的としている。

### 2. メンバー

リーダー：山口知昌

メンバー：荒木ゆうか

### 3. 今年度活動した内容

#### (1)活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
5/28	引き継ぎ	箱崎キャンパス中央図書館	4
5/28	活動会議	箱崎キャンパス中央図書館	2
6/4	活動会議、記事の作成	箱崎キャンパス中央図書館	2
6/11	記事の作成	箱崎キャンパス中央図書館	2
6/18	記事の作成・更新	箱崎キャンパス中央図書館	2
6/26	活動会議、記事の作成・更新	箱崎キャンパス中央図書館	2
7/9	記事の作成	箱崎キャンパス中央図書館	2
7/12	活動会議、記事の作成・更新	箱崎キャンパス中央図書館	2
7/15	記事の更新	自宅	1
7/18	記事の更新	自宅	1
10/3	活動会議	センターゾーン PS ルーム	2
10/12	記事の作成	センターゾーン PS ルーム	1
10/17	記事の作成	センターゾーン PS ルーム	1
10/19	記事の作成	センターゾーン PS ルーム	1
10/24	記事の作成	センターゾーン PS ルーム	1
10/26	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
10/31	記事の作成	センターゾーン PS ルーム	1
11/1	活動会議、記事の作成・更新	E-Cafe	2
11/6	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
11/7	記事の作成	センターゾーン PS ルーム	1
11/13	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
11/14	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
11/20	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
11/21	記事の作成	センターゾーン PS ルーム	1
11/27	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
11/28	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
12/4	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
12/5	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1

日程	活動内容	場所	人数
12/7	活動会議、記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	2
12/11	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
12/12	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
12/18	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
12/19	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
1/8	記事の作成・更新	イーストゾーン PS ルーム	1
1/9	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
1/10	活動会議・更新	E-Cafe	2
1/15	記事の作成・更新	イーストゾーン PS ルーム	1
1/16	記事の作成・	センターゾーン PS ルーム	1
1/23	記事の作成	センターゾーン PS ルーム	1
1/29	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
2/13	記事の作成	センターゾーン PS ルーム	1
2/15	活動会議、記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	2
2/18	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
2/21	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
2/26	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
3/13	記事の作成・更新	センターゾーン PS ルーム	1
3/20	卒業式への参加、記事の作成	センターゾーン PS ルーム	1
3/22	活動会議、記事の作成	センターゾーン PS ルーム	2

## (2) 活動概要

### ( i ) 引き継ぎ

今年度の Facebook 班の最初の活動は前任者からの引き継ぎであった。前任者は 2 名だったが、2 名とも 3 年生となり、学業等が忙しいこともあり、今年度より山口と荒木が引き継ぐこととなった。記事の作成・更新の方法、気をつけるべきことなどをひと通り伺った。

ちなみに、私たちは 3 代目であり、前任者は 2 代目、1 代目は「九州大学コミュニケーション・バリアフリー支援室」(IN 室の前身である、略称 CB 室) の名前で Facebook アカウントを作成、2016 年の 3 月から活動を開始している。



図 1 活動会議の 1 コマ

### ( ii ) 活動会議(図 1)

活動会議、これは新規記事のトピックについて案を出したり、活動計画を立てたり、他にも総会で指摘や提案を受けた際にはその議論を行ったりと幅広い内容の会議を行った。前期は月末に 1 回ずつ、後期は月初めに 1 回ずつ行った。

特に問題がなければ、この会議は新規記事のトピックを考え、誰がどの記事を担当するかの予定を立てて終わる。ここでは文責者がこの会議では変革が起きたなと思ったものをいくつか紹介する。

前期の 7 月には Google ドライブを用いた Facebook 班のフォルダが完成した。それ以前はメールで Word ファイルを添付のうえ、先生方に校閲をお願いしていたが、フォルダができたことにより、記事の一覧を



図 2 更新されたカバー写真  
(PS 学生活動のマスコットキャラクター「気づきスイッチ」のポーズを真似ている。)

把握しやすくなり、コメント機能により校閲がしやすくなり、効率的な活動を促進するきっかけとなった。

後期の12月にはトップページのカバー写真の更新を行うことを決め、折り良く年内最後の定例会の際に、PS学生の集合写真を撮影した。その後、実に2年半ぶりにカバー写真を変更し、トップページを一新した。(図2)

### (iii)記事の作成・更新

記事の作成と更新は本活動のメインである。週に1回、90分を使って行われる。前期には2人揃って週に1回ずつ、後期には各人で週1回ずつ記事の作成と更新を行っていた。

記事の作成と更新は基本的に次のような手順で行われている。  
①Googleドキュメントに記事を書き、写真を添付する。  
②完成した記事を専用のGoogleドライブへと保存し(図3・4)、IN室へ記事の完成を報告。  
③IN室の先生方が校閲してくださる。  
④校閲をもとに記事を修正する。  
⑤校正後、IN室の先生方に最終確認をとる。  
⑥記事を投稿する。  
文章にしてみると、とても長い過程であるように感じられるし、何だかとても時間を費やしているように思えるかもしれない。しかし、実のところ、そうではない。文章量にもよるが、多くの記事では①から⑥へ辿りつくのは約2、3週間ほど。すなわち、活動回数にしてみれば2、3回ほどでFacebookに投稿される。活動報告などは時間が経てば経つほど、鮮度が落ちてしまうため、作成の裏側は非常にスピーディーだ。

記事の内容に関してだが、概要説明、活動紹介、活動報告、本の紹介、IN室関連のイベントの広報など多岐にわたった。多くを占めたのは活動紹介、活動報告である。特に、後期は活動が非常に充実していたこともあり、記事のトピックが尽きなかった。また、頓挫したものとして、PS学生紹介がある。昨年より続いていたものであったが、今年度は中止となつた。

なお、今年度、最高となる489人の閲覧者数を記録した記事は7月14日更新【福岡雙葉高等学校 SGH活動×九州大学障害者支援ピア・サポーター学生】の記事であった。(2019年3月4日現在)



図3 Facebook班のフォルダ



図4 山口が作成中の記事

#### 4. 活動を振り返って

今年度、作成した記事は 51 記事に上る。昨年度に比べ、多くの記事を作成・更新することができた。(図 5)閲覧者数には記事によりムラがあるものの、少なくとも 50 人、ほとんどの記事は 100 人以上に閲覧されており、また、時には記事を閲覧された方からコメントをいただくこともある。より多くの人に IN 室や PS 学生活動について知つてもらうことができていると言えるだろう。一方、興味を持つてもらうという点では、Facebook のユーザーが減っていること、特に PS 学生として活躍してほしい九大生の多くが Facebook を頻繁に使用しているわけではないことなどを考慮すると、やや難しい点もあると考えられる。

また、昨年度は記事の作成から投稿までに費やされる時間の長さと投稿の時期やタイミングの計画性に関しての反省があがっていたが、今年度は先生方からの記事の校閲のことを考えた計画を組んだり、校閲が少なくなるように注意して記事を書いたりと、工夫した作業を行うことができたといえる。

来年度の課題としては、新規メンバーの育成が挙げられる。今現在のメンバーが 2 人ともに 3 年生に進級する。2 人ともに来年度も活動を続ける予定であるが、引退、もしくは卒業に際して発生する引き継ぎの問題に関して、経験者が一気にいなくなってしまうという状況を防ぐため、新 2 年生を新規メンバーとして迎え入れ、活動してもらうことにより、安定した継続的な活動ができるよう整える必要がある。来年度からはサブリーダーの役職も設け新規メンバーの育成に務めたい。



図 5 記事の更新中

## 【Twitter】

文責：板倉健大・山口知昌

**概要**：PS 学生の Twitter アカウントを今年度開設した。開設にあたって、IN 室とイメージを共有するため、試運転の期間を設けた。その後、アカウントの実用を行い、PS 活動の紹介を行った。これにより、PS 加入希望の新入生を獲得することにも成功した。その後、7か月の運営停止があったが、後期に入り、PS 全体の活動方法が変わるとともにリーダーも変更し、定例会終了後やイベントの実況ツイートなど、積極的な広報を行っている。

### 1. 目的

Twitter にて PS 活動の広報を行い、九州大学の学生、他における PS 活動の知名度を向上させることと、IN 室、PS の活動やイベントの紹介、周知を行うことを目的にした。Twitter アカウント設立当初の目的は、Twitter で九州大学新入生に呼びかけ、新歓企画の参加者を増やし、PS 学生を増やすことであった。

### 2. メンバー

リーダー：板倉健大(～2018/10/31)、山口知昌(2018/11/1～)

### 3. 今年度活動した内容

#### (1)活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
2/19	総会にて発案	センター3号館	
2/27	ツイート(仮運営開始)	リーダー自宅	1
3/1	ツイート	リーダー自宅	1
3/3	ツイート	リーダー自宅	1
3/5	ツイート(仮運営終了)	リーダー自宅	1
3/6	ツイート	リーダー自宅	1
4/4	ツイート	リーダー自宅	1
4/11	ツイート	リーダー自宅	1
4/12	ツイート	リーダー自宅	1
4/15	ツイート	リーダー自宅	1
4/17	ツイート	リーダー自宅	1
11/1	リーダーの交代	SNS 上	1
11/22	ツイート	センターゾーン PS ルーム	1
11/28	ツイート	センターゾーン PS ルーム	1
11/30	ツイート	センターゾーン PS ルーム	1
12/5	ツイート	センターゾーン PS ルーム	1
12/12	ツイート	センターゾーン PS ルーム	1
12/25	ツイート	センターゾーン PS ルーム	1
1/9	ツイート	センターゾーン PS ルーム	1
1/16	ツイート	センターゾーン PS ルーム	1
2/4	ツイート	センターゾーン PS ルーム	1
2/15	ツイート	センターゾーン PS ルーム	1
2/23	ツイート	リーダー自宅	1

#### (2)活動概要

##### (i)立ち上げまで

PS は以前より Facebook での広報を行っていたが、学生は Facebook よりも Twitter を多く

利用しているため、学生にリーチするためにはTwitterのほうが好ましいという理由により、Twitterアカウント開設の必要性については以前からPSメンバーより声が上がっていた。2月19日の総会にて発案をし、今年度Twitterアカウントを開設するに至った。

Facebook に比して Twitter の利点は即時性にあり、活動の実況などにも利用できるという面がある。しかし、ツイートの内容について IN 室の承認を得てから公開という形では時間がかかり、即時性が損なわれてしまうという問題がある。そのため、tweet ツイートをした後に内容を事後報告するという形での運営を目指した。これにあたって、IN室とTwitter班のイメージを共有するために、試運転の期間(2018/2/27～2018/3/5)を設けた。試運転期間中は、アカウントに鍵をかけ、一部の PS メンバー以外からは投稿内容が見えないようにした。tweet ツイート内容

## ( ii ) リーダーの交代

当初の喫緊の課題は新歓での参加者を集めるために新入生にリーチすることであった。これが達成されたこと、また前期の活動が班別で行われたことにより、Twitter 班が各活動の内容を把握できないため、広報する内容がないという理由により、7か月の停止に至った。後期に入り、PS 全体の活動方法が変わるにあたって、Twitter リーダーも交代した。

(iii) ツイート

試運転期間中は、PS の Facebook のリンクを張ったり(図 1 参照)、アンケート機能を使ったクイズなどを投稿した。試運転が終了し、アクションを公開したのちは、他の PS メンバーからの投稿を寄せてもらった。具体的には、ALC の活動報告、入学式での PC ノートテイクについての紹介、新歓前の PS 活動全体の説明(図 2 参照)がある。

2019年11月1日にリーダーが交代した後、まずは今後のツイートの方針を考えた。方針としては活動のたびにこまめにツイートをすること、実際の雰囲気や臨場感が伝わりやすいようにツイートに合わせた写真もいつしょにツイートすることなどを新たな柱とした。

11月22日、再始動の初ツイートは図3をご覧いただけます。爽やかに再スタートできるよう努力したつもりである。以降、定例会のある毎週水曜日を基準に定例会の開始、終了の際などに図4のようなツイートを行った。終了の動内容からひとつを選び紹介する形を取っていた。

活動紹介のツイートも行った。図5は「わくわく！大学たんけん隊」という企画の実況中継を行った様子である。リアルタイムで「今やってるよ！」を伝えられるようなツイートは今後も行っていきたい。また、後期に紹介した活動としては、バリアフリーマップ、ポスター班の写真撮影、新歓企画、熊本大学との大学間交流会などがある。どのツイートも楽しさが伝わるような写真とともにツイートできたと思っている。この他にも、年末には「今年も一年ありがとうございました、来年もよろしくお願いします。」といった締めくくりの挨拶とともにPS学生の集合写真をツイートした。



図1 試運転期間中のツイート

 九州大学障害者支援ピア・サポート  
@qu\_peersupport

みなさんこんにちは！ピアサポーター新歓係です！今回から数回にわたって、ピアサポーター学生(PS)について知っていただくべく、ツイートしていきます！

題して、【ぴあさぽーたーつてなに？】略して

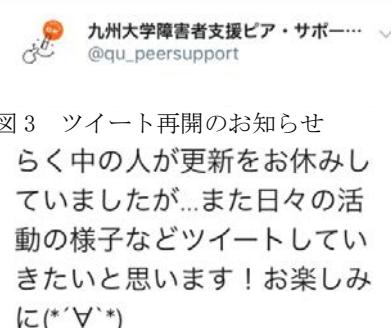
【PS?】！！

略しすぎなのは、文字数制限との戦いのせい。

それでは、お坐り、みにー！！

図2 PS紹介

答に以て、上者にて時は今日の活



11:10 · 2018/11/22 · Twitter for iPhone

来年度以降も定例会の様子の紹介、各活動の紹介は継続してやっていきたいと思う。

#### 4. 活動を振り返って

いちばんの課題としては、見てくれている人の数、また「いいね」を押してくれた人の数が少ないことである。そこで、2019年の2月下旬～3月上旬、九州大学の前期合格発表を前に、九州大学の他のサークルを少しずつフォローすることとした。ねらいとしては次の通りである。合格発表のあとは、多くのサークルがTwitterで「合格おめでとう、ぜひサークルの新歓に来てほしい」という旨のツイートをする。この時、合格者が検索しやすいようにハッシュタグをつけるサークルが多い。合格者はハッシュタグなどで検索をするため、九大のサークルのTwitterをたくさん見かけることとなる。特定のサークルアカウントの履歴を辿ると、Twitterの機能として「おすすめユーザー」が表示される。多くのサークルをフォローすることで、他のサークルのアカウントを見た際にも九州大学障害者支援ピア・サポーターのアカウントが提示されやすくなり、より合格者の目につきやすくなると予想できる。広報を担うツールとして、「へえ、こんな活動もあるんだ」というちょっとしたきっかけから、新入生や在校生にPS学生やPS学生活動興味を持つてもらい、PS学生としていっしょに活動してくれる仲間を増やしていきたいと思う。なお、「九州大学障害者支援ピア・サポーター」のアカウントは2019年3月7日現在で115名をフォローし、52名のフォロワーがいる。

また、次に課題としているのはツイートする人を増やすことである。今現在、「中の人」は1人である。「中の人」とは、実際にツイートをする人のことを指すものである。愛着を込めて、報告書内でもこう呼ぶことしたい。「中の人」が1人であるのと同時に、内容を考える人も1人なのだ。Facebookとは違った気軽で、柔らかいツイート、PS活動の楽しさが伝わるようなツイート、PS学生の頑張りが伝わるようなツイート…などを心がけた文章づくり、絵文字の選択、写真の撮影を行っているつもりではあるが、考える人が1人であるために、内容やレパートリーが尽きてくることがある。ツイートに目新しさがないとでも言うのだろうか。ツイート内容のマンネリ化が危惧される。そのため、来年度以降は①定例会、活動の終わりにPS学生にツイートを考えてもらうこと、②「中の人」をもう1人増やすことを検討している。①定例会の終わりにPS学生にツイートを考えてももらうこと、これは多様なPS学生の、多様な目線からツイートの内容を考えてもらうということである。内容の偏りもなく、雰囲気の違ったツイートになるだろうと思う。また、Twitterは文字数が140という制限があるため、定例会の終わりの5分、活動時間の終わりの5分といった短い時間で、PS学生に大きな負担を及ぼすことなく活動できるという利点もある。②「中の人」をもう1人増やすことは定例会や活動に限らない、その他のツイートをしやすくすることができるだろう。また、今の「中の人」は来年度には高学年となり、忙しくなることが考えられる。引き継ぎなども視野に入れて、新たな「中の人」を育成したいとも思っている。

来年度以降のコンテンツについても検討している。来年度以降は、PS学生紹介を行いたい

九州大学障害者支援ピア・サポーター  
@qu\_peersupport

障害者支援ピア・サポーター  
学生は毎週1回、水曜日の  
18:30～の定例会で様々な活動  
を行っています。今日もスタ  
ートです！



図4 定例会の様子

九州大学障害者支援ピア・サポーター  
2018/11/30  
「わくわく！大学たんけん隊」無事に終了しました。小学生といっしょに大学を探検して楽みました！その後、PS学生はすぐに授業へ戻り…残った学生は疲れた…かと思いきや、その後はすぐに反省会！活発に意見交換しています！(口\*)。



Q ← 3 左

図5 企画の実況中継

と考えている。簡単でわかりやすく、楽しいPS学生紹介をすることで、よりPS学生活動を親しみやすいものにしたいと思っている。

今年度から始まったTwitter、来年度以降も楽しく活動していきたい。

## 【新歓企画】

文責：山口知昌

**概要：**主として新入生を対象とし、PS 学生の存在、PS 学生活活動について知ってもらい、PS 学生となって活動してもらうことを目的とした企画である。企画のメインとなる新歓ガイダンスには 6 名の新入生が参加した。

### 1. 目的

- 新入生にピア・サポーター学生という学生がいることを知ってもらう
  - 新入生にピア・サポーターがどんな活動をしているのか知ってもらう
  - 新入生にピア・サポーター学生になって活動してもらうとしての登録を促す
- なお、主な対象は学部 1 年生でしたが、そこから広げて学部 2 年生以上の学生も対象とした。

### 2. メンバー

リーダー：山口知昌

メンバー：荒木ゆうか、大川優生、大嶋里奈、藤井桜子

### 3. 今年度活動した内容

#### (1) 活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
11/8	新歓企画班結成	各自宅、SNS 上	5
～2/12	企画書準備	各自宅、SNS 上	5
2/19	総会で企画を提案	総会会場	5
～4 月中旬	企画実施準備	各自宅、SNS 上	5
4/4(水)	ビラ配り		7
4/11(水)	授業時アナウンス	センター2 号館 2304 教室	4
4/16(月)	新歓ガイダンス	センター2 号館 2107 教室	5
4/25(水)	授業時アナウンス、新歓ガイダンス	センター2 号館 2304 教室、センター2 号館 2107 教室	5
2/15(金)	引き継ぎ		2

#### (2) 活動概要

##### (i) 新歓企画班結成～総会で企画を提案

2017 年 11 月、しなくてはならない活動はたくさんあるものの、人手不足…という現状を目の当たりにし、「よし！新歓企画をしよう！」と立ち上がったリーダーと 4 人の班員で新歓企画班を結成した。前年度には新歓説明会という企画があったため、前年度のものを参考にしつつも、今年度は正式な PS 学生活動として新歓企画を IN 室に提案することとした。企画目的、企画実施日、企画内容を検討のうえ決定、企画書を作成した。2018 年 2 月 19 日(水)の総会で提案し、成立した。

##### (ii) 企画実施準備

総会で提示した企画内容に沿って次のような準備を進めた。

###### 1. 情宣

- ・ビラ作成・配布

入学式用のビラと授業時アナウンス用のビラ、2 種類を作成することとなった。

- ・Twitter

Twitter にてツイートを行うための原稿を作成した。

## 2. ガイダンス

### ・PS 学生・PS 学生活動の説明

新歓ガイダンスのメインとなるプログラム。PS 学生とは、AL とは、PS 学生活動にはどのようなものがあるのか紹介するスライドを作成した。

### ・PC ノートテイク実演・体験(図 1)

授業時アナウンスやガイダンス中の説明をノートテイクして見せたり、実際に PC ノートテイクをしてもらったりするため、必要な説明のスライドを作成した。

### ・動画を見てもらう(図 2)

YouTube にアップロードされている動画「僕が君の耳になる(HANDSIGN)」(URL : <https://m.youtube.com/watch?v=G1YtC1mMHsg>) を見てもらうこととした。特に準備はなかった。

### ・手話

声を出さずにコミュニケーションを取ってもらったり、手話を覚えてもらったりするため、内容を考えた。

### ・クイズ

ゲーム感覚で PS 学生活動やアクセシビリティ、ダイバーシティについて知ってもらうため、クイズの内容を考え、そのスライドを作成した。

## 3. 新歓ガイダンス配布物

### ・活動紹介パンフレット

コンセプトとしては、家に持ち帰ってゆっくり読めるものとして、新歓ガイダンスで配布する、説明会の内容をさらに詳しくした説明、PS 用語、PS 学生の紹介などを掲載したパンフレットを作成した。

## 4. 授業

### ・授業時アナウンス

PS 学生が田中先生の開講する授業の前後 5 分ほどをいただいて、PS 学生活動を紹介するため、スライド作成、原稿作成、発表準備を行った。

なお、準備段階で頓挫した内容として、CM のようなミニ動画、映画上映会がある。CM のようなミニ動画は作成側の負担が大きかったこと、映画上映会は企画目的に合った上映する作品を見つけられなかったことにより頓挫した。ここからは、本番の様子の記録である。

### (iii) ビラ配り

4月4日(水)の入学式に合わせてビラ配りを行った。PS 学生 7名で配布したビラは 300枚と多くのビラを手渡すことができた。

### (iv) 授業時アナウンス(図 3)

IN 室長の室長でいらっしゃる田中先生が開講する講義「ユニバーサルデザイン研究」にて、最後の 10 分程度をいただいて、授業時アナウンスを行った。

1回目は4月11日(水)に行った。2名が掛け合いのトークをし、別の 2名がそのトークを PC ノートテイクで実演するという形式をとった。トータルは PS 学生について、実演中の PC ノートテイクとこれが入学式にも同じように活動してい

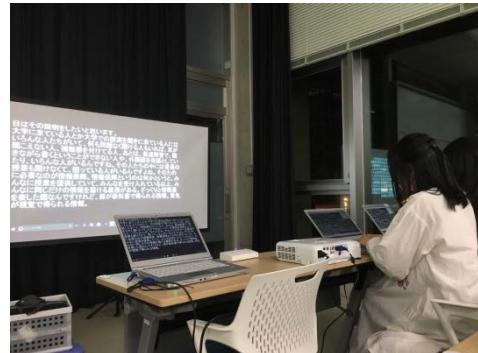


図 1 PC ノートテイクの実演



図 2 動画を見てもらっている



図 3 授業時アナウンス

したことについて、また他の活動や、新歓ガイダンスの日程のお知らせなどを分かりやすく説明した。終了後には受講生に対してビラを配布した。

2回目は4月25日(水)に行った。後述するが、この日は新歓ガイダンスの2日目でもあり、新歓ガイダンスの告知をするアナウンスとなった。3名が講義にお邪魔させていただき、「新歓ガイダンスを今からやるよ!」という旨の告知を行った。

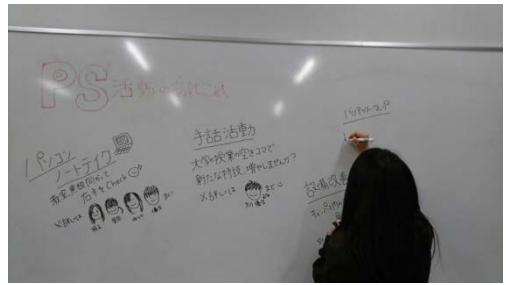


図4 新歓ガイダンス会場の準備

#### (v)新歓ガイダンス1日目

新歓ガイダンスの1日目は4月16日(月)18:30~19:30に行なった。事前準備は17:30頃から1時間ほどで行った。(図4)参加者は2名であった。プログラムは次の通りである。

開会→①PS学生・PS学生活動の説明→②クイズ→③動画を見てもらう→④手話→⑤PCノートテイクの体験→閉会  
上から順に説明したい。

##### ・PS学生・PS学生活動の説明(図5)

作成したスライドを用いて、「障害者支援ピア・サポートー学生」、「アクセシビリティ」、「インクルージョン支援推進室」、「アクセシビリティリーダー」といった用語の説明をした後、活動紹介を行なった。また、最後にはPS学生が必要な理由を説明し、PS学生として活躍してほしい旨を伝えた。



図5 PS学生・PS学生活動の説明

##### ・クイズ

作成したスライドを用いて、「アクセシビリティとは…」、「ピア・サポートーとは…」、「オストメイトマークとは…」、「ユニバーサルデザインとは…」、「ダイバーシティとは…」という用語に対する説明が正しいかどうかを○か×で答える5問を出題した。正解が○でも×でも解説を用意し、「オストメイトマークとは…」という問題では、オストメイトトイレの写真を提示し、「ユニバーサルデザインとは…」という問題では、身の回りにあるユニバーサルデザインの例を写真とともに提示した。

##### ・動画を見てもらう

上述した動画を見てもらった。参加者さんより運営スタッフのほうが見入っているのではないかというほど参加者さんと運営スタッフ全員が集中して見てていた。動画のあとには、手話やPCノートテイクが出てきたことを振り返り、聴覚障害のある人にとって必要な支援であることを説明した。

##### ・手話(図6)

指文字のスライドを見せて、指文字を教えた。自分の名前を表現するチャレンジをしてもらった。また簡単な手話を教えた。参加者さんも運営スタッフもいっしょになってチャレンジした。



図6 手話の体験

##### ・PCノートテイクの体験(図7)

まずはPCノートテイクとはどのようなものか、どのような人に必要とされているのか、実際のPCノートテイクの様子、必要なスキルを説明する。その後、体験してもらった。体験では、実際にPCノートテイク用のパソコンでスタッフが読み上げる文章打って

みた。新入生からは「難しい！」、「えっ、あつ、変換が、ちょっと待って！」といった声が上がった。その後、いつもPCノートテイクをしているメンバーが、先ほどと同じ内容の文章の読み上げをノートテイクした。新入生からは「すごい」、「速い」などと声が上がった。2回目のガイダンスでは読み上げの文章として「ももたろう」を読み上げ、新入生がPCノートテイクについてチャレンジしたが、1回目同様、初のノートテイクに苦戦、本来の「ももたろう」とは別のお話が出来上がっていいるといった笑いのおこる光景も見られた。PCノートテイクの重要性とティカーのスキルの重要性が伝わったように思う。



図7 PCノートテイクの体験

- ・開会、閉会は元気なアナウンスで盛り上げることが出来た。

#### (vi) 新歓ガイダンス 2日目

新歓ガイダンスの2日目は4月25日(水)18:30~19:30に行つた。参加者は4名(途中退室2名)であった。プログラムは次の通りである。

開会→PS学生・PS学生活動の説明→PCノートテイクの体験→動画を見てもらう→手話→クイズ→閉会

内容は1回目と大きく異なっていないため、(v)新歓ガイダンス1日目で内容をご覧いただきたい。

2回目は授業時アナウンスを終えてから新歓ガイダンスを行うという2本立てであったため、ややバタついたが、協力して円滑な進行となつた。

#### (vii) 引き継ぎ

引き継ぎは2019年2月15日に行つた。新歓企画2019のリーダーとなる筒井向けて、今年度の活動の詳細について話し、次の新歓企画もより良いものになるよう頑張ってほしいことを伝えた。なお、新歓企画2018のリーダーである山口は、来年度の新歓企画ではサブリーダーとしてリーダーを支えることとしている。

## 5. 活動を振り返って

PS学生活動史上、IN室に提案の上で新歓を行つたのは今年度が初となる。企画提案から準備、企画の実施まで6ヶ月をかけたとても長く、濃い企画であった。様々なことを振り返りたい。

振り返って真っ先にあがるのは、参加者数が少なかったことが挙げられる。1日目は2名、2日目は4名と、運営スタッフも思わず「あんなに頑張ったのに！」と言いたくなってしまうような結果に終わってしまった。前年度に比べ、広報の幅は広がり、数も多く、また、企画内容は前年度のものをさらにパワーアップさせた充実したものばかりであったと思う。

参加者数の少ない原因としては、やはり新入生からは「お堅いサークル」のように受け止められている一面があるということだろう。趣味やスポーツ、学問などを扱うサークルとは違った「大学の活動」である。新入生からすれば「私にはとても務まらない」、「なんだか大変そう」と思う人は少なくないはずだ。他のサークルと比べ、どうしても敷居が高い、心のハードルが上がるといったことが考えられる。しかしながら、新歓ガイダンスに参加してくれた新入生の半数以上がその後、PS学生として活躍していることを考えると、「百聞は一見にしかず」…実際に見て、体験してというガイダンスに参加してもらうことができれば、PS学生として活躍してもらう未来はそう遠くないのかもしれない。

来年度は、いかに「新歓ガイダンス、あるいは説明会に行く」というハードルを下げるか、どのように「すごい」、「やってみたい」、「他のことも知りたい」という気持ちを引き出すかに視点をあて、より良い広報、ガイダンス等での体験の充実などを図れると良いのではないだろうか。

次に、気づくまでに時間を要したが、新歓企画に参加し、を受けてPS学生となった新入生へのフォローが十分ではなかったことが挙げられる。誰ひとりとして、新歓企画を終えた後の新入生へのアプローチ、また新入生教育のことを露ほども考えていなかつたのだ。この結果「前期はあまり活動できなかつた。」、「後期になるまで定例会の存在を知らなかつた。」、「わずか数日違いで書類を提出したのに、AさんとBさんはPS学生としての委嘱状を受け取った時期に大きな違いがでた」などという事態が発生した。あってはならないことである。しかしながら、1年前の私たちはこの点を見据えることが出来ていなかつた。

今年度の問題点として、PS学生の多くが箱崎キャンパスへと通学するため、伊都キャンパスで活動できる学生が少なく、その場で新入生のフォローアップができる学生も少なかつたことが挙げられる。そしてこれは予想できたはずであるが、十分な対策が取られていなかつた。来年度に関しては、多くのPS学生が伊都キャンパスで活動できるため、問題は解決に向かうだろう。

残る問題としては、新入生へのアプローチと新入生教育である。今は運営上、システムがないというのが現状で、これから作らねばならない。PS学生となった新入生をどのように活動に誘い込むか、どのようにPSのルールを知ってもらうかなど検討しなければならないことは山積みである。他のサークルでは「教育係」、「教育プログラム」などという名前も聞くため、新入生のサポートや教育を専門とした班を立ち上げて、年間を通してアプローチしたり、教育したりするというのも良いのではないだろうか。

「PS学生として頑張りたい!」という気持ちを胸にPS学生となった新入生の目を読み取つたり、潰したりしてはならない。万全のサポートを行い、新入生がPS学生として思う存分、力を発揮できるよう、フォローしていかねばならないだろう。

新歓企画は新たなPS学生を獲得するという重大な使命を担っている企画である。今後ますます、この企画が新入生にとって、PS学生にとってより良いものとなることを心から願う。

## 【教職員向け啓発ハンドブック作成】

文責：上野麻衣

**概要：**本活動では、教職員が学生の多様性を理解するための一助となることを目的とし、啓発ハンドブックパンフレットを作成した。はじめに、教職員にアンケートを実施し、教職員が学生と関わるうえで抱えている困難感について調査した。その内容から、記事の内容を勘案した。イラストはデザインを専攻する他大学の学生に依頼した。現在ハンドブックは内容が完成したところである。今後は印刷・配布と配布後の反響調査をしていくことが求められる。

### 1. 目的

近年、大学進学率の上昇に伴い、多様な障害を持つ学生増加している。このような学生に対し、教員教職員は学生の抱える様々な問題について理解し、必要な配慮をしていくことが求められている。しかし、教員教職員側が学生の多様性について理解することは容易ではない。そこで、学生の多様性について教員教職員側に理解を促すハンドブックを作成し、以下2点を目的とする。

①教員教職員側が様々な困難を抱える学生に対して円滑に対応できるようにする。

②学生が必要な支援を受けられること。

### 2. メンバー

リーダー：松石真梨子

メンバー：大野愛哉、上野麻衣、鮫島優美子、原田英

### 3. 今年度活動した内容

#### (1)活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
2018年5月	原案作成	九州大 箱崎キャンパス	5
2018年6～10月	事例選定・本文検討	九州大 箱崎キャンパス	5
2018年7～10月	イラスト・デザイン作成	九州大 箱崎キャンパス 天神付近(イラスト話し合い)	1 外部学生1
2019年4～5月 (予定)	印刷	九州大 伊都キャンパス	今後検討
2019年4～5月 (予定)	反響調査	九州大 伊都キャンパス	今後検討

#### (2)活動概要

##### (i)原案作成

メンバーで話し合い原案を作成した。見開き1ページを使って1事例を紹介した。左ページに教職員側から見て不思議・奇妙・失礼に見える事例を紹介し、右ページにそのような態度の裏側にある事情や困難を説明する形とした(図1)。これにより様々な学生の困り感を知ってもらい、学生に相対するときに学生の事情を想像する際の一助となると考える。

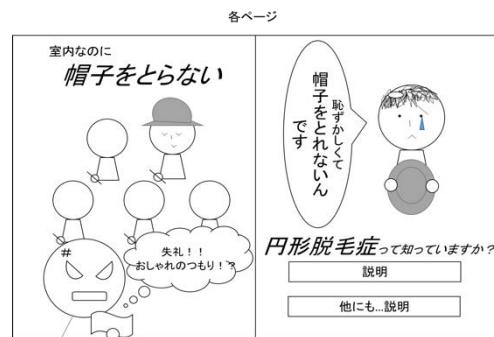


図1 原案

#### ( ii ) 事例選定・本文検討

ハンドブックで取り上げる事例を選定するために、教職員を対象としたアンケート調査を行い、学生との関わりにおいて戸惑いを感じた経験を尋ねた。また当事者学生に対してのインタビュー調査も行った。その結果、戸惑いを感じた経験とその要因となりうる障害として5事例を選定した(表1)。またインタビュー調査から、当事者学生は合理的配慮へのジレンマ(支援を必要と考えつつも、障害を知られたくないという思いもある)があることが分かり、支援を必要としても要求できない学生の思いを知ってもらうべきと考えた。そこで、合理的配慮のジレンマによって学生側から事情を言い出しにくいことを説明する文章と、相談先としてIN室の情報を載せた、まとめのページを追加した。

表1 パンフレットで紹介する5事例

教職員の視点	学生の事情
帽子をかぶったまま授業を受けている	円形脱毛症のため、恥ずかしくて帽子が脱げない
書類に毎回不備がある	性的マイノリティに属していて性別が答えられない&決まっていない
授業中何度も外に出る	過敏性腸症候群を有しており、トイレに行きたくなってしまう
課題で作成してきたパワポが見にくい	色覚異常を抱えていて、みんなに見えやすい配色がわからない
飴をなめながら講義を受けている	一型糖尿病のため、飴をなめないと低血糖の症状が出てしまう

### (iii) イラスト・デザイン作成

AL 資格取得に必要な授業(バリアフリー支援入門)にて、イラスト・デザインを担当する学生の公募・推薦を依頼し、九州造形短期大学所属の学生 1 名(中尾美結さん)にデザインを担当してもらった。PS 学生と計 4 回天神某所にて直接の話し合いと、オンラインツールを用いたやり取りを通してデザインの推敲を行ってもらった。図 2 にデザイン案を示す。



図 2-1 表紙



図2.2 (まとめ)



圖 2-2 土木工程上之土壤

(iv)印刷・配布

(vi)反響調査

2019年4月～5月に印刷・配布、反響調査を行う予定である。

#### 4. 活動を振り返って

本活動では、パンフレットに載せる内容、デザイン・レイアウトを確定することができた。この活動で、学生の多様性の理解・困り感について学ぶことができた。

活動の課題として、以下のものがあげられる。

①パンフレットの印刷・反響調査が今年度中にできなかつたこと。

②AL研究の授業からPS活動に移行したため、活動班のメンバー以外が活動に加わることが遅く、多くのPS学生が参加できなかつたこと。

今後は、印刷・配布を行い教職員の方々に学生の多様性について知っていただき、反響調査を行つてより良い啓発方法の在り方について理解を深めていくこととする。

## 【災害サイン作成】

文責：原田 英、鮫島 優美子

**概要：**九州大学の災害時用ヘルプマーク（災害サイン）を作成する。ヘルプマークとは援助や配慮を必要としている人々が、そのことを周囲の方に知らせるマークである。災害サインを作成するために、当事者へインタビューを行い、ヘルプマークについての多様なニーズ・要望を把握し、実際のデザインに活かしているが、最終案については検討中である。

### 1. 目的

近年、日本で「ヘルプマーク」の導入が始まっている。東京都が2012年に配布し始めて以来、全国の都道府県や自治体に広まってきた。福岡県でも2017年より、ヘルプマークの載った「ヘルプカード」を東京都に次いで全国2番目に導入している。ヘルプマークとは、援助や配慮を必要としている人々が、そのことを周囲の方に知らせることができるマークである。ヘルプマークの活用が特に期待される場として、交通機関や公共施設に加え、災害時があげられる。災害時のような混乱した状況の中で、配慮を必要とする人が声を上げられず支援を受けられないことを防ぎ、安全に避難できるようにするために、ヘルプマークは重要な役割を果たすと考えられる。

ヘルプマークについて、昨年度行われた九州大学ピア・サポートによる難病を有するOBへの聞き取り調査では「もっと広まってほしい」、「『手を引いてください』など行動レベルのマークにしてほしい」、「ガイドブックもあってほしい」などの声があがっている。このことから、配慮を必要とする人が望むデザイン、また支援者が望むデザインには、それぞれ多様な意見があがることが推測される。そのため、ヘルプマークを作成する上でこのようなニーズを把握することが大変重要なことである。

そこで、今回は災害時におけるヘルプマーク（以下、災害サイン）についてのニーズ・要望を把握し、災害サイン（災害時配慮を必要とすることがわかるようなマーク）を作成することを目指とする。

### 2. メンバー

リーダー：原田英、鮫島優美子

メンバー：大野愛哉、松石真理子、上野麻衣

### 3. 今年度活動した内容

#### (1)活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
5/29	話し合い	箱崎キャンパス	2
6/5	話し合い	箱崎キャンパス	2
6/21	話し合い	箱崎キャンパス	5
6/26	デザイナー募集	箱崎キャンパス	2
6/27	第一回当事者インタビュー①	伊都キャンパス	1
6/29	第一回当事者インタビュー②③	伊都キャンパス	1
7/9	第一回当事者インタビュー④	伊都	1
7/10	デザイナーとの打ち合わせ	天神	2
7/12	インタビュー結果考察	箱崎キャンパス	1
10/18	デザイナーとの打ち合わせ	天神	2
10/29	第二回当事者インタビュー①	伊都キャンパス	1
10/30	第二回当事者インタビュー②	伊都キャンパス	1
11/1	第二回当事者インタビュー③	伊都キャンパス	1
11/12	デザイナーとの打ち合わせ	大橋キャンパス	2
11/20	デザイナーとの打ち合わせ	大橋キャンパス	1
3/7	デザイナーとの打ち合わせ	大橋キャンパス	1

## (2)活動概要

### (i) 話し合い

災害サインを作成するにあたり、方法の確認、スケジュールの確認、インタビュー調査の内容などについて話し合いを進めた。その結果、方法については、障害のある学生にインタビューを行うことで、配慮を必要とする人のニーズを把握したのち、その結果をもとにデザインを決めていくこととした。スケジュールについては、この時点では1年で完成のイメージ。7月中旬までにインタビュー依頼・実施、8月までにインタビュー結果の考察、8月下旬デザイン方針の提案、後期にPS学生とデザイン検討し、必要に応じてデザイナー募集を行うこととした。インタビュー調査の内容については、①災害サインの着用希望、②災害時困ること・配慮してほしいこと、③着けやすいデザイン、④対象（障害）の特定の要否、⑤着用形式、⑥サインに載せる文言等を半構造的にインタビューを行うこととした。

### (ii) デザイン依頼

デザイナーを募集することとなり、募集広告を作成の上、芸術工学部の学生に募集をかけた。その結果、芸術工学部4年の学生が引き受けくださった。

### (iii) 第一回当事者インタビュー

障害のある学生4名に、①災害サインの着用希望、②災害時困ること・配慮してほしいこと、③着けやすいデザイン、④対象（障害）の特定の要否、⑤着用形式、⑥サインに載せる文言等を半構造的にインタビューを行った。

### (v) インタビュー結果考察

第一回のインタビューの結果をまとめ、考察した。災害サインのデザインについてあがった意見としては、「必要な支援が絵でわかったらよい」、「障害の特定はされないほうがいい」、「裏に障害の内容や必要な支援がかけるようなスペースはあったほうが良い」、「目立ちすぎるとつけたくない」、「可愛いデザインがいい、文字だけは嫌」、「コミュニケーションのきっかけになればよい」、「汎用性のあるものを」などがさまざまであった。これらを考察すると、インタビューでは全体的に、災害サインを身につけていてどう見られるのかを気にする声が多かった。具体的には、障害の特定、障害を持っていると過剰に意識されることに抵抗があるようであった。しかし、災害時というの迅速な対応が必要であり、災害サインは迅速な対応を行っていくのに有用であると考えられる。

### 災害サインデザイナー募集

記憶が必要な学生が災害時助けを求めることができるサインの作成をお手伝いしてくださる方を募集します！！

#### ★企画概要

私たちは、九州大学の災害サイン（名称は仮）の作成を企画しています。災害サインとは、災害時に、障害などのために配慮が必要な学生が、周囲にそのことを知らせるためのサインです。配慮が必要な学生の中には、外見だけはわかりにくい障害や病気を持つ人もいます。そのような人々が災害サインを身につけることで、安全に避難したり、援助を受けやすくしたりすることがねらいです。

なお、この企画は九州大学の正規の事業に含まれており、引き受け下された方のお名前を作成者として記録させて頂きます。ポートフォリオ等に使用して頂いても構いません。

#### ★仕事内容

##### 災害サインのデザイン 1～2個

デザインを決定する上では、事前にこちらで調査した障害をもつ学生へのインタビュー結果をもとに、相談しながら進めて頂きます。インタビュー対象は主に、聴覚障害を有する学生を予定しています。

#### ★仕事の進め方

まずは、学内報告会が8月8日（水）に向けてデザインを進めて頂きます。

報告会の場で検討した上で最終形を作成いたしますので、8月8日までにデザイン案がデータとしてできあがっていることが条件です。

最終的にPDF形式でデザインのデータをいただければ、使うソフト等はお任せします。

#### ★謝金

5千～1万円程度 作業時間により上乗せ有り

#### ★連絡手段

デザインを進める上でのやりとりは、LINE、電話、メール、SNS どれでも構いませんので、ご希望に合わせます。福岡市内であれば直接お会いすることも可能です。

なお、募集への申込みは下記の連絡先にお願い致します。

九州大学人間環境学府実践臨床学専攻 田中真理研究室  
鷺島優美子

図1 デザイナー募集のチラシ



図2 ヘルプマーク案1

以上のこととふまえ目指す方向としては、①障害を特定されない災害サインで視認性をあげていくこと、②グラフィックは、「手助け」「援助」というイメージのピクトグラムやイラストやロゴ、「help」といった文字、それらの複合体といった方向性で行くこととした。

このインタビュー結果考察をふまえ、実際にデザイナーがデザインに取り掛かり、手をつなぎながら逃げる人のピクトグラムにhelpの文字をつけたものを第一案となった。文字については、「Help」を主体にするが、「手助けが必要です」などの文字もサブ的に載せるか検討。

#### (vi) 第2回当事者インタビュー

10月時点でのデザインについて、再度障害のある学生3人にインタビューを行った。この3人は一度インタビューに協力してくれた方々である。インタビューの結果、「黄色×黒の組み合わせが見やすい」、「形をもう少し調整（人の形が少し不自然）」、「人の間をハート型にしたらよいかも」、「“手助け”が上から目線という印象を受け、“助け”的な方が良い」、「漢字はひらがなにするまではしなくてよいが、ルビはふるといい」といった声が上がった。この結果を受け、また、このインタビュー後に、芸術工学部の先生に、完成に向かたアドバイスをもらっていくことが決まった。

#### (iv) デザイナーとの打ち合わせ

デザイナーとの打ち合わせを複数回行った。すでに作成していたヘルプマーク案2はポーズや人の形に不自然さが見られることから保留となった。途中、芸術工学部の先生からアドバイスを受ける場を設け、また、インタビューの結果を取り入れながら、様々な案が生まれた。その際、実際にポーズを取りながらの志向錯誤であった。

例えば、1のように人Aと人Bが向きあう案や、2のように人Aが人Bを引っ張ろうとする案があった。しかし、検討を重ねた結果、人Aと人Bが手を握り走ろうとするデザイン3がデザイン自体に動きがあり他者からの視線誘導がしやすく、人Aと人Bどちらも対等な関係であることから採用することになった。

現在もデザインについては検討中で、具体的には人の輪郭をどれくらいリアルもしくはピクトグラム風にするのか、デザインが出来上がるまでもう少し議論の余地があるだろう。また、色や文言、デザインを用いた物品（ワッペン、三角巾、腕章 et…,,）についても検討中であり、デザインが完成したのちにこれら3つも決まるうことになる。



図3 ヘルプマーク案2



図4 デザイン案1



図5 デザイン案2



図6 デザイン案3

#### 6. 活動を振り返って

今年度中の完成を目指していたが、大橋キャンパスにいるデザイナーや指導してくださる先生との会議のためにリーダーが出向く必要があったため、完成が来年度の4月にずれることになったことが反省点である。一方で、インタビューの中で出てきた様々な相反する意見をバランスよく取り入れながらデザインを作ることができているため、今活動の目的に沿ったものになっていると考えている。

## 【高校生交流】

文責：下田成大

**概要：**2018年7月14日 九州大学ピア・サポーター学生と福岡雙葉高校の生徒が共に障害について学んだ。

### 1. 目的

大学に入ってアクセシビリティに関する授業を取り、九州大学障害者支援ピア・サポーターとして活動してきたことで社会の抱えるアクセシビリティの問題、アクセシビリティの向上のメリットなどを学び、これからは積極的にアクセシビリティの向上を目指して活動していくたいと思うようになった。大学でアクセシビリティに関する学ぶことで見える世界が広くなったことを感じる。それぞれの人に特徴があり、個性があり、その個性を生かす方法も一律ではなく様々な可能性がある事。学ぶ事で少なからず見えてくる世界が変わることを実感している。

自分が高校生から大学生になった事で見える世界が変わってきた事は述べたが、大学生になる前の段階。つまり高校生に注目してみる事で何か発見があるのではないかと思い、今回は高校生を対象にしてアクセシビリティに関する取り組みをすることにした。高校生たちとアクセシビリティについて考え、結果的に生徒たちそれぞれがアクセシビリティに関する意見を持ち、彼らがアクセシビリティに関心を持ってもらう。そうして結果的にアクセシビリティの向上に貢献出来たい。

### 2. メンバー

リーダー：下田 成大

メンバー：荒木ゆうか、板倉健大、大嶋里奈、川上里以奈、坂井法仁人、筒井優菜、森下裕人、山本悠子

### 3. 今年度活動した内容

#### (1) 活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
4/12	雙葉学園の先生と面談	伊都キャンパス	1
4月～5月	参加学生集め		1
6月 6日	今後のスケジュール決め	伊都キャンパス	
6月 10日	今後のスケジュールを元に参加メンバーを確定	伊都キャンパス	
6月 13日	当日の流れを決めた。具体的に90分をどのように使っていくか。	伊都キャンパス	
6月 20日	具体的なテーマ、課題決め	伊都キャンパス	
6月 27日	Ps紹介の資料作り	伊都キャンパス	
7月 4日	流れの調整	伊都キャンパス	7
7月 7日	リハーサル、反省	伊都キャンパス	5
7月 10日	リハーサル	伊都キャンパス	6
7月 11日	リハーサル	伊都キャンパス	6
7月 12日	準備	伊都キャンパス	6
7月 13日	準備	伊都キャンパス	6
7月 14日	当日	雙葉高校	10
7月 18日	反省会	伊都キャンパス	7

## (2) 活動概要

福岡雙葉中学高等学校の職員が SNS サイトで発信している九州大学ピア・サポーターの活動に興味を持っていただき、中高一貫校である福岡雙葉中学高等学校の授業「SGH 活動」の一環として九州大学障害者支援ピア・サポーターのメンバーとディスカッションすることになった。この授業のテーマは「Inclusive(包括的)な社会を構築するために」である。このテーマに沿ってディスカッションの計画を進めて行った。

ピア・サポーターと高校の生徒のディスカッションは 7 月 14 日に行われた。

このディスカッションに先駆けて、九州大学の稻葉美由紀先生が SDGs などの国際スタンダードについて、面高有作先生が合理的配慮についての授業を行った。この授業の流れでディスカッションを行うことになるので、二人の先生方の授業の内容をしっかりと把握した上で当日の準備を進めた。

ディスカッションの後は得られた意見、発言をまとめた。

この授業は高校生における社会の多様性に関する理解を深めるという側面がある。つまり、高校生の社会の多様性に関する理解、教育が不十分ではないかという意見が少なからずあるということだ。本当に社会の多様性に関する理解が不十分な事が問題なのか、雙葉双葉高校だけではなく日本全国の高校生に関して調査を行い、これをまとめていきたい。



図 1 交流会の様子

## 4. 活動を振り返って

この活動は雙葉高校側からの要望で実現したものである。進行などに反省するべき点が多くあった。もっと事前に通してリハーサルをするべきだった。

是非機会があれば再び違う視点から障害についてアプローチを行い、継続に学んでいきたい。

## 【ポスター・ビラ制作】

文責：川波花音

**概要：**啓発活動のひとつとして、学内に掲示するポスターを制作する活動である。現在学内で掲示しているポスターを参考に2種類のポスターを作成し、その他にPS活動を紹介するポスターも制作した。また、学内掲示だけではなく九州大学の新入生に向けて入学式等で配布する。

### 1. 目的

アクセシビリティとは何か、PSはどのような活動をしているのか、九大内の学生や教職員、新入生に知ってもらう。ポスターや配布用のビラにすることでたくさんの人々の目にふれることができる。学生や教職員、特に新入生は見える障害に対して、見えづらい障害とそのアクセシビリティに関しての知識が少ないと思われるため今回は発達障害をテーマにポスターを作成した。

### 2. メンバー

川波花音、貞方栄、筒井優菜、村上日香

### 3. 今年度活動した内容

#### (1)活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
11/14	デザイン方針の決定	PSルーム	4
11/21	デザイン方針の決定	PSルーム	5
12/12	デザイン方針の決定	PSルーム	5
12/13-1/8	デザイン案の制作		1
1/9	デザインの決定	PSルーム	6
1/16	ポスター制作	PSルーム	7
1/30	ポスター制作	PSルーム	6
2/1-	入稿作業		

#### (2)活動概要

##### (i)デザイン方針の決定

ポスターで伝えることを障害の啓発、アクセシビリティの認知、PS活動の紹介に絞った。ただ、これらを1枚のポスターで表現するのは難しいので、複数枚ポスターを制作することにした。ビラにする際は裏と面に両面印刷にすることで1枚にまとめる。また、現在学内掲示されているポスターを参考に、障害がある状況、支援がある状況、相互性という要素をポスター・デザインに取り入れることにした。テーマにする障害として、入学式で新入生に対して配布されることを考慮し、認知度の低い見えづらい障害（発達障害、聴覚障害、精神障害等）に焦点を当てた。

##### (ii)デザイン案の制作

冬季休業中にPS学生がデザイン案の制作をした。フォトショップというソフトを使用している。バリアフリー支援入門やアクセシビリティ支援入門などの講義や普段のPS活動を参考に、大まかなデザインを考えた。図1にそれぞれテーマにした障害をデザイン案の下に記している。上の段の左から、学習障害(LD)、色覚・視覚・発達、視覚、精神、聴覚となっている。3段目のデザインは、九大内でのアクセシビリティの低いところ、高いところを実際に写真付きで紹介するといったものになっている。

### (iii) デザインの決定

制作したデザイン案の中から図1の1段目左と中央のデザインを採用した。左は、LDの方の文字の見え方をイメージし、円の中では文字が読みやすくなるようなデザインになっている。障害がある状況（文字が読み取りにくい）と、支援がある状況（円の中では文字が読み取りやすくなる）をデザインに取り入れている。中央は文字の読み取りや曖昧な表現の理解、大量の情報を一度に処理することが困難な方をイメージし、大量の情報の中から必要な情報を取り出しているデザイン。左と同じく、障害がある状況（情報が大量かつ曖昧で複雑）、支援がある状況（ある手が情報を取捨選択する）をデザインに取り入れている。ただ、今回は採用されなかったが、図1の1段目右のデザインや、3段目のデザインは汎用性があるので、中の写真や絵を変更してシリーズ化にしても面白いのではないかという意見も出た。

### (iv) ポスター制作

イラストレーターとフォトショップを用いて、ポスターの制作を行った。制作の際には、デザイン班、説明文を考える班、キャッチコピーを考える班に分かれて作業した。（図2）この際も現在掲示されているポスターを参考にした。（図3）

図4-1は、辞書をモチーフとすることにし、色も重厚感あるものにした。LDについて知っている人は少ないと考えられるため、LDについての説明に重点をおいた。また、ルーペで詳しいアクセシビリティの説明が読み取りやすくなっているため、赤茶の背景部分でのアクセシビリティの説明は簡略化した。図4-2では、障害状況、支援状況の説明に加え、アクセシビリティの分かりやすい説明を載せた。全体的にポップなポスターになっている。キャッチコピーは他にも候補があったが、分かりやすく、短い、そして印象に残りやすい、「見える≠わかる」にした。図4-3では、PCノートテイク、移動支援、手話、バリアフリーマップ作成それぞれの写真と活動内容を紹介している。紹介文章は昨年の活動報告書を参考にし、写真はFacebookやtwitter班の学生が日々撮っているPS



図1 ポスターのデザイン案



図2 ポスター制作の作業風景



図3 前回のポスターを参考にしている様子

活動写真を使用させてもらった。他に、インクルージョン支援推進室の公式ホームページのQRコードや学生の利用度の高いPS公式twitterのQRコードも載せている。

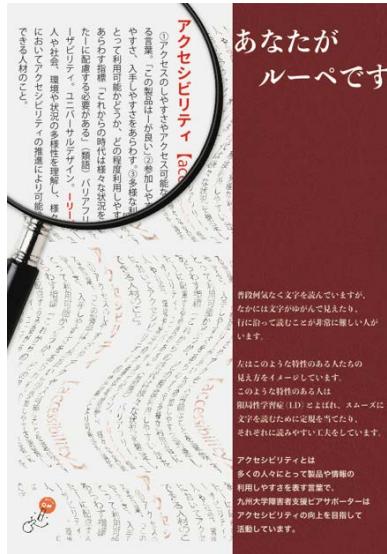


図 4-1



図 4-2



図 4-3

図 4 完成したポスター

#### 4. 活動を振り返って

ポスター制作する上で、アクセシビリティとは何か、どのような場面でどんな人に困難が生じるか、どのような支援ができるかなどを考えることで、アクセシビリティや様々な障害とその支援についてさらに理解を深めることができた。また、普段のPS活動やバリアフリー支援入門、アクセシビリティ支援入門などの講義で学んだこと、感じたことを生かすことができたと感じている。今回は後期からこの活動を始めたが、始める前までにPS活動や定例会でのミニレクチャー、講義を通して完全ではないがある程度の知識を身につけた状態であったことが良かったと考えられる。よって、来年度も後期から実施する方がよいと思う。

一方反省点として、①リーダーが教員が主導であったこと、②デザインを行う学生が限られ、負担が大きかったことが挙げられる。①について、PSの活動では主にPS学生がリーダーとなって活動を行って行くが、ポスター班は横田先生がリーダーを務めた主導した。おかげでスムーズに話し合いが進み、当初の予定通りポスターを完成させることができたが、先生に頼りきりとなった。来年度、学生がリーダーになる際にもスムーズに制作ができるよう、今回の活動の計画や仕方をきちんと引き継ぐことが必要である。②について、今回デザイン案の制作や、最終的なポスターの制作は1人の学生で行なった。ポスターを制作する際に使用するイラストレーターやフォトショップなどのソフトを使える人、実際にデザインをすることができる人も限られていたためだと考えられる。来年度は、1人の負担が減るような役割分担が必要となる。例えば、デザイン案は図1のように丁寧にする必要はなく、どのような意図があるのか、どこに何を配置しているのかが分かればよく、実際にデザインができなくても、案を出すことができるため、班員全員で案を出し合う等が考えられる。もう1つ1人でデザインをする欠点として、限られた視点で、限られたデザインしかできなくなってしまう点がある。もう少し話し合いの場を設け、様々な人の多様な視点をポスターに取り入れたい。イラストレーターについて、バリアフリーマップ作成でも使用するので、合同でイラストレーターの講習会を開いてもいいのではないかと思う。また、イラストレーターを使ったポスター作成についてマニュアル化していきたい。ポスターを制作するだけではなく、実際に印刷して掲示や配布していくので、入稿の手順や掲示、配布までの流れもまとめておきたい。

以上、改善の余地は多くあるので皆で問題点を共有し、来年度以降の活動に役立てたい。

## 【手話】

文責：坂井法仁

**概要：**手話班は、入学式、卒業式での手話通訳を学生が行うという最終目標の下、実際に通訳を行えるようにPS学生を育成している。今年度は7月23日から2月14日まで1週間に2回、友池氏の指導で手話奉仕員養成講座入門編に沿って行われた。また、班に属さないPS学生向けの手話体験会を班内の学生で企画し、実際に1月16日の定例会で行った。

### 3. 目的

障害者権利条約への批准、障害者差別解消法の施行に伴い、本学においても障害者への直接支援や間接支援、情報保障を行える環境づくりが進んでいる。聴覚障害者への直接支援として、情報保障の一つに手話通訳がある。本学には手話サークルがあるが支援体制整備を目的としておらず、今に至るまで日本手話による式典などの行事や通常授業における情報保障はなされていない。この状況を危惧し、2017年12月より手話通訳を行える学生の育成を目的とした手話の講座が開講されている。

### 4. メンバー

リーダー：坂井法仁

メンバー：荒木ゆうか、板倉健大、上野麻衣、下田成大、墨田知世、筒井優菜、森下裕

### 4. 今年度活動した内容

#### (1)活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
7/23	手話講座	伊都キャンパスセンター1号館	1
7/25	手話講座	伊都キャンパスセンター1号館・大橋キャンパス	4
7/30	手話講座	伊都キャンパスセンター1号館・大橋キャンパス	5
10/9	手話講座	PSルーム・大橋キャンパス	2
10/15	手話講座	PSルーム・大橋キャンパス	4
10/16	手話講座	PSルーム	3
10/22	手話講座	PSルーム・大橋キャンパス	4
10/23	手話講座	PSルーム	4
10/29	手話講座	PSルーム・大橋キャンパス	4
10/30	手話講座	PSルーム	3
11/5	手話講座	PSルーム・大橋キャンパス	4
11/6	手話講座	PSルーム	4
11/12	手話講座	PSルーム・大橋キャンパス	3
11/13	手話講座	PSルーム	2
11/19	手話講座	PSルーム・大橋キャンパス	4
11/20	手話講座	PSルーム	3
11/26	手話講座	PSルーム	3
11/27	手話講座	PSルーム	4
12/3	手話講座	PSルーム・大橋キャンパス	2
12/4	手話講座	PSルーム	3
12/10	手話講座	PSルーム	3
12/11	手話講座	PSルーム	3

日程	活動内容	場所	人数
12/17	手話講座	PS ルーム	2
12/18	手話講座	PS ルーム	4
1/7	手話講座	PS ルーム・大橋キャンパス	2
1/8	手話講座	PS ルーム	3
1/15	手話講座	PS ルーム	1
1/16	手話体験会	PS ルーム	8 (手話班外 PS 学生を含む)
1/21	手話講座	PS ルーム	1
1/22	手話講座	PS ルーム	3
1/28	手話講座	PS ルーム・大橋キャンパス	2
1/29	手話講座	PS ルーム	3
2/14	手話講座・座談会	PS ルーム	5

## (2) 活動概要

### ( i ) 手話講座、ろう者との座談会

表 1 講座のサブタイトル

第 1・第 2 講座	伝えあってみましょう
第 3 講座	名前を紹介しましょう
第 4 講座	家族を紹介しましょう
第 5 講座	数を使って話してみましょう
第 6 講座	趣味について話してみましょう
第 7 講座	仕事について話してみましょう
第 8 講座	住所を紹介しましょう
第 9 講座	まとめ
第 10 講座	一日のことを話しましょう
第 11 講座	一ヶ月のことを話しましょう
第 12 講座	一年のことを話しましょう
第 13 講座	パーティのことを話しましょう
第 14 講座	旅行のことを話しましょう
第 15 講座	病院のことを話しましょう
第 16 講座	学校のことを話しましょう
第 17 講座	職場のことを話しましょう
第 18 講座	まとめ

今年度の活動開始前、PS 学生の中で手話の経験量に開きがあった。以前から自主的に勉強している人、昨年度に PS で開講された甲斐更紗先生カリキュラム方式の講座を受けた人、ほとんど経験の無い人といった具合である。昨年度の講座が PS の中で手話を勉強する試運転だったということや、甲斐先生が 6 月で退任されて講師が手話通訳士の友池はすみ氏に移ったということで、手話の経験が全く無い学生でもゼロから勉強できるようにという願いを込めて、新たなカリキュラムが組まれた。このカリキュラムは、年度内に手話奉仕員養成講座入門課程の手話のパートを修了することを目標としている。

養成講座では手話の入門課程で第 1 講座～第 18 謲座が割り当てられている。初めから第 1 講座と第 2 講座が抱合せになっていることに加えて、第 18 講座を座談会に置き換えて第 17 講座の直後に行ったので、実質 16 回の開講となつた。時間は一部の例外を除いて 1 時間、5 限目の時間中である。学生の時間割の都合から、週 2 回の講座を開き同じ週で同じ内容を取り扱う形式を取ったため、実際の回数はほぼ倍である。なお、大橋キャンパスにある芸術工学部の学生からの参加希望があるので、伊都キャンパスと大橋キャンパスを Skype で接続する措置が取られた。基本的に、毎回以下のように進む。単語の確認、テキスト付属 DVD の手話読み取り、各テーマに沿った簡単な会話、時間が余ればろう文化の説明や手話を用いた簡単なゲームをする。特に手話は理解度の確認とアウトプットの量の確保に重点を置いて進められた。



図1 座談会で友池氏の説明を聞く学生たち  
会勉強を兼ねて適切な計画だったと言える。

第18講座「まとめ」は、ろう者とコミュニケーションを取って彼ら・彼女らの生活を知り、ろうであることで困ることを教えてもらうという内容だった。そこで、友池氏の知人でろうの社会人女性の中田氏を大学に招くことになった。2月14日、開始1時間（10:00～11:00）は中田氏も参加して第17講座を行い、終了後更に1時間を座談会に割り当てた。中田氏の家族構成と来歴、現在の生活の話をした後、バレンタインデーということもあって浮世話に花が咲いた。その後は受講生の専門と将来の夢についてそれぞれ説明をして終わった。本来の目的が達成されたかは疑問が残るが、受講生の刺激になったようである。社会勉強を兼ねて適切な計画だったと言える。

#### (ii) 手話体験会

手話の勉強は積み重ねで、途中から活動に参加する、自分の都合で参加できる日にすることになったことは難しい。開講当初は途中参加も認めていたが、回を重ねるにつれてレベルアップしていく、必然的に閉鎖的な環境になりがちである。手話班外のPS学生から、手話班が普段どんなことをしているのか気になるという声が上がったことを踏まえ、特に班外の学生を対象にした手話体験会を企画した。普段の講座を意識するならば友池氏に第0講座のようなものを行っていただくのが良いのであろうが、6限目の定例会の時間に体験会を開く以上は友池氏が参加できないので、班のメンバー（受講生）の中から講師役を選ぶことになった。募った結果、サブリーダーの下田が受け持つことになった。助言や報告受けはリーダーの私が行ったものの、基本的に内容は下田と相談役の板倉任せであった。



図2 体験会でホワイトボード向かって右前に立って説明する下田とそれを聞く学生たち

1月16日の定例会で、各班が使える1時間の内の30分間で体験会が行われた。自分の名前を言えるようになる程度の自己紹介を説明した上で、手話を勉強中のPS学生も勉強していない学生も惹きつけるために、まず飲み会で使える手話の若者言葉（チュハイ：「キス」+「Hi!」、ハイボール：「高い」+「ボール」、ワイン：指文字の「わ」をワイングラスのように軽く回すなど）を紹介した。その後、ファストフード店にろうの客が入店したときに聴者の店員がどのように注文を受けるかというシミュレーションをロールプレイ形式で行い（下田がろうの客役を務め、店員役を順番に回す）、その苦労を体験してもらった。最後に、手話が分からなくても身振り手振りや口話で積極的にコミュニケーションを取ることが大事だという主張を述べて終わった。

心のバリアを取り除くこと、手話の使用意義を再確認するという点で非常に重要な話であった。

#### 4. 活動を振り返って

日本手話による式典などの行事や通常授業における情報保障の重要性に鑑み、特に入学式、卒業式での手話通訳を学生が行うという最終目標を基準に考える。手話通訳は、手話でろう者と話すということ以上に難しい。多少の原稿が事前に分かっていたとしても、式典での音声情報を可能な限り正確に日本手話へ翻訳しなければならず、瞬間的な判断力や社会生活に関わる多くの知識が求められ、一朝一夕には上達できないからである。これを踏まえると、大学の教育サービスを享受するとしても個人的な勉強を進めるとしても、継続的により長く手話に触れ、同時に多くの聴者、ろう者、他の障害者と関わって社会スキルを身に着けていく必要がある（大学はこれらの機会を提供すべきであろう）。手話の指導担当者の引継ぎでの混乱があつて今年の開始が7月下旬になってしまったが、止むを得ない事情とは言え時期的に遅かったと考えられる。担当者が変わってもスムーズに移行できるシステムをPS

学生と IN 室とで構築すると良い。手話のカリキュラムは適切だった。初めて手話を学ぶ学生にとって予備知識を全く要さないので着実にステップアップでき、手話勉強経験のある学生にとって無駄ということも決して無く、基礎固めや復習になったようである。

今後の活動で留意すべき点は班のオープンさと手話やろう文化の啓発である。積み重ね型で閉鎖化しやすい分、手話の勉強だけでは班外の PS 学生が気になるのも無理は無い。聴覚障害の生物学的な知識、ろう者の間で形成されているろう文化、ろう者が感じる社会的障壁などの教養は PS 学生全体、ひいては九州大学の多くの学生や教職員にあっても良いので、これらの事柄は自分たちでよく勉強した上で普及すべきであろう。実際に、2019 年 4 月から手話班のリーダーになる下田から、毎週の講座とは別に 1 ヶ月に 1 回は PS の中の勉強会をする計画が挙がっている。

## 【メンタルヘルス勉強会】

文責：村田海翔

### 概要

この報告書では、2018年度後期から1学期間にかけて行われたPS活動の一つである、メンタルヘルスの勉強会内で行われた内容について詳細を述べる。

### 1. 目的

大学生であるということは、限られた時間の中で学業に関する複数のタスクをこなし、結果を出すことが求められる非常にストレスフルなステータスであり、大学生のメンタルヘルスの悪化や自殺などが大きな問題となっている。これらを踏まえ、学内にあるメンタルヘルスの問題について考え、それを解決することを本活動の大目的とする。特に、近年学生の死因を占める自殺に関して焦点を絞ってその予防と対策を目的とする。

### 2. メンバー

リーダー：村田海翔

メンバー：とくに固定メンバーはなし

### 3. 今年度活動した内容

#### (1)活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
10/31	勉強会	PSルーム	3
11/7	勉強会	PSルーム	4
11/14	勉強会	PSルーム	2
11/21	勉強会	PSルーム	3
11/28	勉強会	PSルーム	3
12/5	勉強会	PSルーム	3
12/17	勉強会	PSルーム	3
1/8	勉強会	PSルーム	3
1/15	勉強会	PSルーム	3
1/22	講演会	PSルーム	8

#### (2)活動概要

##### (i) 勉強会

当初はメンタルヘルスの教科書を使って網羅的に勉強をしようと考えていたが、まずは現状を知るべきだという意見があり、主にネットで公開されているオンライン資料をかき集めて毎回メンバーでシェアをして勉強を進めて行く形で勉強会が行われた。その中で、筑波大学はかつて自殺者数が多かったものの、大学の努力によって自殺者数を削減することができたということがあり、九州大学も筑波と同じく隔離されたキャンパスに著しい人数の学生が集う環境にあるので、筑波を参考にしてメンタルヘルスの活動を進めて行くことを決めた。その中で、日本人の学生の中での死因の第一位は長年自殺であり、学生の自殺は社会・経済の将来に大きな影響を与えるので、自殺予防に特化した内容を11月から毎週勉強会のなかで資料を各自持ってきて話し合いをするよ：



図1 議論する参加学生

## (ii) 講演会

メンタルヘルスに問題を抱える学生の支援について学ぶため、実際に九州大学キャンパスライフ・健康支援センターにて学生支援を行っている先生をお呼びして講演を聞いた。活発な意見交換が行われ、今後活動を行う上での指針となったと思われる。

### 4. 活動を振り返って

アメリカでの最先端のメンタルヘルスに関する支援の取り組みを見て、経済大国日本でもこれくらいのことができないのはまずいのではないか、と危機感を持って活動を始めた。具体的には、日本ではメンタルヘルスに関する話題すらタブーであり、差別や軽視の対象になることが多い。アメリカでは精神障害に関して非常にオープンな啓発が行われている。日本では就職活動で精神障害をオープンにすることは好ましくないような雰囲気があるが、アメリカでは就職活動の際にも、精神障害があっても能力を示すことが出来れば内定を得ることも十分にあり得る。このように、アメリカではメンタルヘルスに関して社会意識がとても高く、遅れた日本に対しても同じような社会意識をもたらすことが出来ればと考えている。活動として、最終的には講演会も含めて実施することができ、とても良い活動となつたのではないかと思う。精神障害は見えない障害とは言われているが、それは身体症状となって表れることがあるし、気分の慢性的な変動や過度な停滞は、学業で結果を出さなければならぬ学生にとって大変なことである。とくに、学生の自殺は、日本における優秀な人材の喪失を意味し、日本社会全体にとって必ず将来的に悪い影響を及ぼすため、早期の対策が必要だ。このモチベーションのもと、今学期の活動を振り返るだけでなく今後に活かすための方法を検討したい。

反省点としては、活動の方向性を決めるのに時間がかかったことだ。メンタルヘルスの勉強会と言ってもメンタルヘルスに関するトピックは非常に幅広く、ある程度幅を狭めなければ活動を進めることは容易ではない。方向性を決めるのに1か月くらいかかってしまったが、一つの方向性として学生自殺の予防と対策を得ることが出来た。

今後の方針として、一つの方向性として学生自殺の予防と対策に関して知識を得るために勉強会と活動を進めて行ければ良いと思う。私が今後参加できるかは分からないが、自殺予防の啓発に向けたポスター作製など行うことで学生の意識を喚起し、また学生支援室などの専門機関につなぐことが出来れば今後はさらによい活動となっていくはずだろう。

## 【車椅子ガイドヘルプ講習会】

文責：荒木ゆうか

**概要：**移動支援経験のある PS 学生が講師となり、支援時に気を付けるポイントや押し方等の実地研修を行った。実際に車椅子を使用する学生のユーザーの意見も聞きながら、PS 学生自身も車椅子に乗ってみたり、押してみたりする模擬体験が中心となった。今年度は大橋キャンパスと伊都キャンパスでそれぞれ 1 回ずつ、計 2 回実施をした。

### 1. 目的

PS 学生の活動内容の一つに、直接支援がある。障害学生に直接的に支援を行うものだ。その代表的なものが移動支援である。しかし、その移動支援の方法について学ぶ機会はありません。本講習会により、正しい支援スキルを身に付け、PS 学生の資質を高めることを第一の目的とする。また、このことはいつ支援を必要とされても適切な支援が行える体制が整っているという環境を構築することにも繋がる重要な取り組みである。

### 2. メンバー

リーダー：大嶋里奈

メンバー：(講習会参加者)坂井、墨田、高木、山口、荒木、下田

### 3. 今年度活動した内容

#### (1) 活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
8/17	車椅子ガイドヘルプ講習会	大橋キャンパス	4
9/25	車椅子ガイドヘルプ講習会	伊都キャンパス	4

#### (2) 活動概要 文責：大嶋里奈

##### (i) 車椅子ガイドヘルプ講習会(大橋キャンパス)

###### ・車椅子の押し方等の実地研修 (60 分)

車椅子ユーザー（坂井）の意見を聞きながら、講習会を行った。具体的な内容としては、2 人ひと組でペアを組み、片方が車椅子に乗り、もう一人が車椅子の介助をし、車椅子を介助する際の基本的な動作（押す、斜面を登る・降りる、段差を持ち上げるなど）の体験を行った。建物内ではエレベーターに乗る体験を行い、屋外では実際にスロープを押したりすなどの活動を通して、参加者は基本的なガイドヘルプの方法を習得することができた。

今回は、大嶋が基本的なことを伝える、という形をとったが、簡易的なマニュアルしか用意することができず、また当事者の意見を反映させることができなかった（参加者の車椅子ユーザーは電動車いすを利用しておらず、ガイドヘルプは自走・介助用車椅子を対象にしていたため）。

##### (ii) 車椅子ガイドヘルプ講習会(伊都キャンパス)

###### ・車椅子の押し方等の実地研修 (90 分)

参加者全員が車椅子の介助を経験したことがあったため、基本的な動作の確認は行わなかった。伊都キャンパス内のセンターゾーンでは車椅子を押した経験があったため、今後のことを考え、下見を兼ねてイーストゾーンを車椅子で探索した。

荒木・山口、大嶋・下田でペアを組み、大嶋・下田は交代しながら車椅子でイーストゾーンのバリアがないか、車椅子で移動するためにはどのような経路をとれば良いのか、などの確認作業を行なった。



図 2 講習会開始前の様子



図3 このエレベーターは車椅子1台が限界

結果として、様々なバリアが浮き上がった。  
以下具体例をあげる。

- ・多目的トイレが狭く、ゴミ箱が複数置いてあり使いづらい。  
(・多目的トイレの中でもオストメイト対応のトイレが少ない)
- ・エレベーターの場所がわかりづらい
- ・エレベーターのボタンが2台のエレベーターの中央に位置しており、車椅子ユーザーが押しづらい
- ・椅子や机が車椅子では利用しにくい椅子や机の配置であった

- ・案内板の位置が高く、車椅子ユーザーが見辛い位置であった
- ・自動販売機に車椅子対応のものがない
- ・食堂は車椅子ユーザーが一人で利用するのには難しいレーンの幅だったり、箸の位置が高い位置に置いてあったりした

今後のバリアフリーマップ作成、設備改善等の活動で幾分か改善されるかと思う。

反省点としては、一般的な形の車椅子を想定して2回のガイドヘルプを行ったが、ストレッチャー型への対応、不随意運動がある方への対応等まではないように含めることができなかつたことが挙げられる。専門家、当事者の意見を交えながら今後一層の向上を目指していきたい。

また、第1回、第2回とも参加者が未経験者、経験者とはっきり分かれていたのでそれに合わせて臨機応変に内容を変更したが、未経験者、経験者が混ざっていた場合の対応を考えていなかった。事前に、参加者のヘルプ経験の有無等を調べておく必要があった。



図4 イーストゾーンへ

#### 4. 活動を振り返って

今年度の活動を振り返って挙げられる課題は2点あると考える。

1点目は、PS学生の支援スキルのばらつきである。実働の支援経験のある学生もいれば、初めて車椅子に触れる学生もいた。これは、現在のPS学生の課題が顕著に表れた結果である。このようなばらつきのある状態で、一律に支援スキルを高めるためには、このような講習会を定期的に開催し、正しい支援方法を確認し、経験者から未経験者へ技術を受け継いでいくことが必要だろう。

2点目は、企画実行の難しさである。本企画は、企画立案から運営までをひとりのメンバーに任せてしまった。実際に講習に参加をした学生の数も、他の活動と比べて非常に少ない。今後、このような重要な講習会を維持させるためにも、多くのPS学生が関わり、参加する講習会へと発展させなくてはならない。今年度リーダーの思いを受け継ぎながら、どのように発展させていくかが、今後の課題である。

## 【視覚障害者ガイドヘルプ研修】

文責：安部咲紀

**概要：**田中真理教授の授業「アクセシビリティ心理学講義Ⅱ」にて行われた。福岡高等視覚特別支援学校より2名の講師（塚本先生、永吉先生）をお招きし、視覚障害に関する基礎的な知識を身に付けたうえで視覚障害者ガイドヘルプの体験、研修を実施した。

### 1. 目的

直接支援はPS学生が障害学生へと直接かかわるため、個々のPS学生のスキルによって支援の質が左右されてしまう。そのため常に高いレベルで直接支援を行うためのPS学生の育成は必須となる。本研修では基本的な視覚障害に関する基礎的な知識や、実践的なガイドヘルプ技術の習得を目的としている。

### 2. メンバー

参加者：上野麻衣、坂部洸太、下田成大

### 3. 今年度活動した内容

#### (1)活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
10/12 13:00～14:30	視覚障害者ガイドヘルプ研修	伊都キャンパス イーストゾーン	PS学生：3名 受講者

#### (2)活動概要

##### (i)座学編

###### ○視覚障害者について

初めに塚本先生からお話をいただき、視覚障害者教育についてご教示いただいた。福岡高等視覚特別支援学校での教育の様子や日本において視覚障害者の人数は約30万人であり、障害種別では最少であること、視覚障害は全盲とロービジョン（弱視）に大別されることなど基本的な視覚障害者の情報について伺った。

また、視覚障害といっても見え方、見えづらさは様々であり、見えづらさは周囲の環境によっても変化する場合もあることについてもお話をあった。

###### ○ガイドヘルプの基礎理論

手引き（ガイドヘルプ）の条件として①安全性・安心感の確保、②能率性の検討、③社会性（見た目に自然な動きや姿勢）の検討、④個別性（視覚障害者、手引き者の希望や行いやすい方法）の検討の4つがあり、ガイドヘルプの際にはこれらを総合的に検討し、適切な判断を行うことが求められる。何よりも優先されるのは①安全性である。手引き者と視覚障害者2人が安全に歩行できる幅と高さを確保した経路を選ばなければならない。また、④個別性について、安全確保以外に決まったルールあるわけではないため、人によって歩く速度やルート、周囲の状況を伝えるかどうかなど様々な要望があるとのことだった。

##### (ii)実技編

座学を踏まえて受講生が二人一組となり、伊都キャンパス内でガイドヘルプ実技の研修を行った。手引きされる受講者はアイマスクやシミュレーションレンズ（様々な視覚障害者の見えづらさを疑似体験するためのゴーグル。弱視や視野狭窄など）を装着した状態でガイドを受け、施設内の移動・階段昇降を行った。



図1 実際にガイドを体験するPS学生

受講生からはガイドヘルプをしてもらう側として「風を感じた」、「聴覚が敏感になった」、「声掛けひとつで恐怖感が薄れ視覚情報がない分聴覚情報が重要だった」などの感想が上がった。また、ガイドする側として、行き過ぎた支援にならないように注意したいという声もあった。

#### 4. 活動を振り返って

永吉先生のお話の中で『視覚障害者だから危ないといって本人の希望を聞き入れずにガイドする人もいる。障害者といつてもいろんな人がいて、障害者の前に一人の人間なので。』という言葉が印象的だった。直接支援に限らず、PS活動の様々な場面において相手をステレオタイプにはめて対応したり、支援することばかりに目を向けて当事者の声を聞いていなければいけないこともあり得る。今回獲得した支援技術を活動に活かすとともに当事者あっての支援であることを再確認したい。

また、本研修は通常授業の中で行われたため参加者の多くは授業の受講生であり、ほとんどのPS学生が参加できなかった。PS内でも同様の研修を実施したり、PS学生間で情報を共有する時間を設けるなどPS全体の支援技術向上に取り組まなければいけないと思われる。

## 【ALC（アクセシビリティリーダーキャンプ） 平成29年度春】

文責：下田 成大

### 概要

ALC（アクセシビリティリーダーキャンプ）に参加する学生が「見る・聞く・話す」ことを通して学び、広い視野で九州大学の支援体制を見つめ、今後のPS学生活動を引っ張っていく事の出来る人材となる。

### 1. 目的

他大学アクセシビリティリーダー学生と共にアクセシビリティに関する最新の技術や考え方を学び、新たな支援機器や支援体制を提案する事で、アクセシビリティを学内や社会で推進するための能力を高める。他大学の支援状況を知り、九州大学の状況を客観視する。

### 2. メンバー

参加者：下田成大、大島嶋里奈

### 3. 今年度活動した内容

#### (1)活動スケジュール

2018年1月～3月

#### (2)活動概要

1日目 2月27日 (火)		【ガイダンス・研修】 会場：アワーズイン阪急「ツイン館 第4・5会議室」
13:50	会場集合	
14:00-14:05	開会挨拶：教育課程WG長 山本 幹雄先生（広島大学）	
14:05-14:25	ALCオリエンテーション：AL育成協議会事務局	
14:25-14:55	アイスブレイク：ALCコーディネーター	
14:55-15:30	ALCウォーミングアップ1： 教育課程WG長 山本 幹雄先生（広島大学）	
15:30-15:55	ALCウォーミングアップ2： PICWG 高本 康明様（富士通株式会社）	
15:55-16:20	研修：「全国の障害学生支援の状況」 JASSO 小越 真一朗様	
16:20-16:30	休憩	
16:30-17:30	各班でのディスカッション	
17:30-17:40	本日のまとめ：教育課程WG長 山本 幹雄先生（広島大学）	
2日目 2月28日 (水)		【AL育成協議会会員企業、協力企業による研修】 会場：富士通川崎工場テクノロジーホール → アークヒルズサイド（六本木）
10:00-12:00	見学と質疑 富士通川崎工場テクノロジーホール 講演1：「心のバリアフリー」 富士通株式会社 エクスペリエンスデザイン部 内田 奈津枝様	
12:00-13:00	移動（富士通川崎工場テクノロジーホール→ アーフヒルズサイド）	
13:00-14:00	昼食・休憩	
14:00-17:00	アーフサイドヒルズ 講演2：NPO法人ピープルデザイン研究所 代表理事 須藤 シンジ様 講演3：『IoTを活用した『居住者の見守りソリューション』』 富士通株式会社 ソーシャルライフ事業部 シニアマネージャー 相原 蔵人様	
18:00-22:00	グループワーク（任意） アワーズイン阪急「ツイン館 第8会議室」	

3日目 3月1日 (木)		会場：マイクロソフト会議室 → ヤマトホールディングス → 羽田国際線ターミナル
9:20-9:30	オリエンテーション	
10:00-12:00	日本マイクロソフト 講演：日本マイクロソフト株式会社 小坂 菜生様	
12:00-13:00	昼食（マイクロソフト会議室）・休憩	
13:00-14:00	移動	
14:00-15:30	ヤマトホールディングス 羽田クロノゲート見学	
16:00-16:30	羽田国際線ターミナル コンシェルジュ見学（国際線）	
18:00-22:00	グループワーク（任意） アワーズイン阪急「ツイン館 第8会議室」	
4日目 3月2日 (金)		【報告・討論・修了式】 会場：アワーズイン阪急「ツイン館 第4・5会議室」
9:00-12:00	成果発表	
12:00	修了式	
12:30-13:30	昼食	
13:30	解散	



図1 下田と研修施設の猫

#### 4. 活動を振り返って

様々な視点からアクセシビリティを見つめるいい機会となった。4日間のプログラムを通して、先進的なアクセシビリティの取り組みを「見る」。様々な分野の人の意見を「聞く」。そして自分の意見を発信する「話す」の三要素を沢山発揮できたと思う。

東京の2020オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みを始め、他大学の支援室の状況など多岐にわたって吸収できたものがあると思う。ALCで学んだ内容は10月10日のPS総会で報告を行った。このプログラムは毎年行われるのでやる気のあるPS学生は是非とも参加していただきたい。

## 【ALC 平成 30 年度サマーキャンプ】

文責：安部咲紀

**概要：**2018 年 9 月に広島市にて平成 30 年度サマーキャンプが開催された。「国際平和都市とアクセシビリティ」をテーマに学習、フィールドワーク（FW）を行い、地方都市にあるべきアクセシビリティについて考え、アクセシビリティ向上のためのプラン提言を行った。

### 1. 目的

「社会の最新のニーズ・取組を学び人に優しい未来を考える」ことを目的とした研修である本研修では国際平和都市広島が未来に向けて取り組むべきアクセシビリティについて他大学アクセシビリティリーダー学生と共に学び、この経験を持ち帰り学内のアクセシビリティ向上をけん引する人材となるため。

### 2. メンバー

メンバー：安部咲紀

### 3. 今年度活動した内容

#### (1) 活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
7/24	ALC 参加申し込み/学内選考	自宅	1 人
8/27、31	事前課題指導	IN 室	今村先生
9/10	ガイダンスや研修	・ TKP 広島平和大通りカンファレンスセンター	学生 9 人
9/11	講義、フィールドワーク	同上	学生 9 人
9/12	成果発表	同上	学生 9 人

#### (1) -1 研修詳細スケジュール

1 日目 9 月 10 日 (月)	【ガイダンス・研修】 ● 会場：TKP 広島平和大通りカンファレンスセンター
	13:50 会場集合：3 F カンファレンスルーム 3 C
	14:00- 開会挨拶：教育課程WG長 山本幹雄先生（広島大学）
	14:10-14:30 ALC ガイダンス：AL 育成協議会事務局 坂本晶子先生（広島大学）
	14:30-14:50 研修 1 「ALC の学び方」 ：教育課程 WG 長 山本幹雄先生（広島大学）
	14:50-15:10 研修 2 「ALC と AL 協議会の取り組み」 ：PICWG 長 高木康明様（富士通株式会社）
	15:10-15:30 アイスブレイク：ALC コーディネーター
	15:30-15:40 休憩
	15:40-17:40 グループ演習：「アクセシビリティの課題を整理する」
	17:40-17:50 1 日目のまとめ・アナウンス
	17:50- チェックイン/休憩
	18:30- 親睦会・情報交換会（夕食）
	20:00 解散

2日目 9月11日 (火)	【AL育成協議会会員企業、ALC協力団体による研修】 会場：TKP広島平和大通りカンファレンスセンター 平和公園・平和記念資料館	
	9:00	集合：カンファレンスルーム3C 2日目ガイダンス
	9:30	講義「アクセシビリティとフィールドワーク」 ：山口大学 岡田菜穂子先生
	10:00	講義「国際平和都市の取り組み」
	10:30	講義「広島平和記念資料館とアクセシビリティ」
	11:30	昼食（お弁当）
	12:30	移動
	13:00	フィールドワーク「平和記念資料館視察」
	14:00	移動
	14:30	講義「ICTとアクセシビリティ」 ：日本マイクロソフト株式会社 小坂菜生様
	15:00	講義「富士通のデザイン思考とアクセシビリティ」 ：PICWG長 高本康明様（富士通株式会社）
	15:30	講義「自動運転とアクセシビリティ」
	16:00	グループ演習：「アクセシビリティをプランする」
	18:00	解散
	18:00-21:00	グループワーク（任意） ：カンファレンスルーム3C
3日目 9月12日 (水)	【報告・討論・修了式】 会場：TKP広島平和大通りカンファレンスセンター	
	9:00-11:00	集合：カンファレンスルーム B1B 成果発表（20分×2、質疑応答30分）
	11:00	修了式：PICWG長 高本康明様（富士通株式会社）
	11:30	解散

参考：アクセシビリティリーダー育成協議会、平成30年度サマーキャンプ研修スケジュール、  
[https://al-pc.jp/web/?page\\_id=765](https://al-pc.jp/web/?page_id=765)

## (2)活動概要

### (i)研修

ALの基本的な理念やALCの目的を再確認し、本研修における成果発表の方針を確認した。

### (ii)講義

広島市の方やAL育成協議会会員企業様から講演をいただく。今回初めての地方都市開催（広島市）で多様なバックグラウンドやニーズを持った人々がよりアクセスしやすいために何が出来得るのかを考えた。原子爆弾によって大きな被害を受けた歴史を持つ広島市は「恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴」として全世界に向けて核廃絶や世界の恒久平和を訴えてきた。この世界に開かれた広島市においてどのような観点からアクセシビリティの課題を発見し、解決できるかについての思考は、普段障害学生支援の視点からアクセシビリティを考えるものとは違い新鮮で且つ貴重な体験だった。また、アクセシビリティを重要視する民間企業が実践するアクセシビリティの取り組みや理念についても話を伺った。

さらに、FWとして広島平和記念資料館に訪れ、どのような形で誰に平和を伝えているのか、情報のアクセシビリティは担保されているか、さらなるアクセシビリティ向上のためにできることはあるかなどを観察した。

### (ⅲ)成果発表

研修の成果として2班に分かれ、広島市に向けたアクセシビリティプランの提言を行った。広島市職員の方のほかに、講演頂いた企業の方にも見ていただきフィードバックをもらった。準備時間は短かつたが、2日間の研修をもとに意義のあるプレゼンになったのではないかと思う。



図1 修了書を持つ参加者

## 4. 活動を振り返って

都市の現状や課題をベースにアクセシビリティの在り方について考えた本研修はとても新鮮で貴重な体験であった。他のALとの交流や議論によって九大と他大学の支援体制の違いを知ることができたのも良い経験となった。また、サマーキャンプは春のALCとは違いAL2級保持者であっても参加できるため学年や経験に関わらず積極的に手を挙げて参加してもらいたい。

## 【平成 30 年度ピア・サポーター総会】

文責：安部咲紀

**概要**：PS 学生と IN 室、関係部署の先生方教職員が集まり、全体の活動報告や共有を行った。今年度は活動の振り返りと来期の予定確認として前後期の始めと終わりの計 4 回実施した。

### 5. 目的

PS 学生は普段各キャンパスにてそれぞれが活動を行っているため、全体での情報共有は難しいため、各 PS 間、IN 室での情報共有や PS 学生の意見交換をし、連携を深めることで支援活動の質を高めることを目的とする。

### 6. メンバー

参加者：各総会ごとに参加者が異なるため省略

参加教職員：インクルージョン支援推進室（田中先生、横田先生、鈴木先生、甲斐先生、羽野先生、今村先生）、学務部学生支援課（奥 課長補佐、近藤専門職員）

### 5. 今年度活動した内容

#### (1) 活動スケジュール

日程	活動内容	場所	人数
5/8	第 1 回 PS 総会	伊都キャンパス 1210 教室	学生：8/教職員：4
8/8	第 2 回 PS 総会	伊都キャンパス 2107 教室	学生：10/教職員：4
10/10	第 3 回 PS 総会	IN 室	学生：15/教職員：5
2/20	第 4 回 PS 総会	IN 室	学生：13/教職員：5

#### (2) 活動概要

IN 室進行の下元、以下の流れで進行する。

- ・諸連絡
- ・各班からの活動報告
- ・活動計画の策定
- ・発案：各 PS 学生がそれぞれの関心をもとに実 PS として施したい企画を提案し、それについて意見交換を行う。

#### 【第 1 回 PS 総会】

平成 30 年 2 月に行われた総会から 5 月 8 日までに行われた活動の共有や活動責任者の確認が行われた。

##### (i) 活動の進捗共有

##### (ii) 前期活動計画について

研修会、設備改善、パソコンノートテイク、手話、広報（Twitter、Facebook）の活動スケジュールの確認が行われたほか、新たに PS の活動として雙葉高校との合同イベント、啓発スター、ヘルプサインの作成を行うことが決定。

##### (iii) 発案

バリアフリーな授業のためのマニュアル作成が提案された。議題としてこの企画と現在行っている授業評価とを結びつけることへの危惧や、マニュアルとツールの開発を合わせてより実効性の高いものとする意見が出た。実行までの課題やすべきことが多いために再検討となる。

## 【第2回総会】

新たに着任された羽野暁先先生のご紹介があったほか、第1回に引き続いて前期に行われた活動の反省と進捗の確認が行われた。また、後期の活動計画において、活動ごとの頻度や計画を共有し、継続的に集まって行う活動と適宜行う活動を分けて管理することとした。

### (i) 総会開催時期の確認

総会は前後期の始め・まとめとして年4回行うこととする。また後期の始めには活動リーダーの交代を行うことが決定した。

### (ii) 先生紹介

8月1日に着任された羽野〇〇先先生生のご紹介。

### (iii) PS学生の登録状況確認

年度末4月より随時受け付けているPS学生についてIN室が把握している登録者と、学生が把握している人数に差があり、確認を要した。

### (iv) 活動報告

ノートテイク、BM、手話、車いすガイドヘルプ研修、Facebook、Twitter、雙葉高校合同イベントの進捗状況を共有し、それぞれが課題に対して議論を行った。

### (v) 後期活動計画

活動の詳細を確認したうえで、参加者を限定して行うもの、PS全員が集まる定例会の中で行うものに分けた。

### (vi) 謝金について

新たにシニアPS学生のマネジメント業務に対しても謝金が支払われるという連絡があつた。

また、予定していた発案の会は時間の都合上延期された。

## 【第3回総会】

IN室の司会のもと活動班報告と以下の議題について議論が行われた。

### (i) 活動報告

ノートテイク、手話、Facebook班リーダーが前期の活動報告と後期の目標を発表した。

### (ii) アクセシビリティリーダーキャンプ報告

春キャンプ、夏キャンプそれぞれの参加者から報告が行われた。（報告詳細については第2章3-5をP.X参照）

### (iii) 今後の体制について

PS学生全体を統括するリーダーは置かず各活動にリーダーが情報把握、共有に努めること、定例会は参加者が持ち回りでファシリテータを務めることが決定した。

### (iv) 活動予定

PS全体の活動を支援活動/啓発活動/研修活動/PS内の活動の4つの柱に沿って活動する。また、新たに「大学たんけん隊」と「発達障害高校生OC」が提案され、PS活動として進めいくことになった。各活動のリーダーは以下の通り。

A:支援活動

- ・ノートテイク：林、宮城
- ・バリアフリーマップ：森下、川上
- ・大学たんけん隊：大野
- ・発達障害高校生オープンキャンパス：鮫島、原田

B:啓発活動

- Facebook : 山口
- Twitter : 板倉、山口
- 活動報告書 : 安部
- ハンドブック : 上野、大野、松石
- ヘルプマーク : 鮫島、原田
- ポスター : 板倉 (のちに横田先生へ変更)

C:研修活動

- 手話 : 坂井
- 勉強会 : 未定 (勉強会ごとに設定)

(v) 視覚障害者ガイドヘルプ研修について共有

12月12日に行われた視覚障害者ガイドヘルプ研修について情報共有。詳しくはP.X参照

**【第4回総会】**

(i) 今年度の反省

活動報告に加え、今年度行った全ての活動について反省事項、来年度への課題を共有。

(ii) 来年度の計画について

各活動の来年度の活動計画について共有。全体で把握することで活動方針の確認、見直しを行った。

(iii) 定例会について

現状定例会で活動したい班を募集し、その通りに活動時間を割り当てているため、リーダーとして活動すると他の活動に関われないという問題があった。よって作業時間に枠を設け、1回の定例会で行う活動数を3つまでに制限することとなった。

(iv) 発案

今年度の新入生加入時に生じた混乱を解決すべく、新歓と加入手続きの整理について提案が出された。定例会で活動を進めるほか、新2年生を中心に全員に作業を分担する。

(v) 写真共有

主にFacebook等に使用している活動時の写真について、一括してGoogleドライブに保存。必要に応じて使用できる。



第4回PS総会の様子

**4. 活動を振り返って**

今年度から年に4回の開催となり、日頃顔を合わせる機会が少ないPS学生同士の交流や意見交換の場ともなっている。昨年度に引き続き、今年度も総会参加者の中から活動リーダーを決定したが現在の方法では特定の学生に負担が集中するほか、総会に参加できなかつた学生の参加意欲低減にもつながりかねない。全員の意見を反映させる方法を考えなければならない。また、情報共有に時間を要するため時間が長引いたり、予定していた提案を先延ばしにする回もあったため、時間管理については改善すべきと思われる。

### 第3章 特別インタビュー

九州大学では1学年におよそ3000人の学生が在籍している。ピア・サポート（仲間による支援）をする私たち障PSに害学生支援障害学生支援ピア・サポーターにとって仲間が過ごしやすいよう支援することは活動目的の根幹であり、そのため真に障害学生が求める支援が何で、PS学生にでき得ることは何かを考え続ける必要がある。しかし、PS学生と障害学生との関わりは支援場面のみに限られるため、日常の細かなニーズを知る機会は少ない。そこで今回は当事者である障害学生に話を伺い、今後の支援の在り方について伺った。

今回話を伺ったのはAさん。視覚障害があり弱視の診断を受けている。以前ピアサポートを受けた経験がある。弱視とは視覚障害の中の分類のひとつである。視覚障害は矯正視力と視野の程度により障害程度に区分があり視覚障害等級に1~6級に分類される。その中で弱視は視覚障害者等級の2~6級に分類される。

——ピアサポートを利用された日のことを教えてもらえますか？

入学した時の健康診断でお世話になりました。駅の改札前で待ち合わせをして、そこから案内してもらいました。私は多少は見えるし、歩けるので慣れない場所で案内してもらうと助かるっていう程度なんです。だから2時間くらい案内してもらったくらいですね。

——利用してみてどうでした？戸惑いなどはありましたか？

特に、ないですね。ただ、（サポートに）来てくれた方がずっと手を組まなきやいけないのかな、と思っていたみたいだったんですけど、私はそこまで重度？重症？でもないというか。階段等も自分で歩けるので、ずっと助けてもらうのではなくどういう場面で案内をしてくれたら助かるかという話はしました。

——ピア・サポートの制度を使ったのは健康診断の日のみ、とのことですが普段はどのように過ごしてらっしゃいますか？

普通に授業受けて、サークルやって、バイトしていますね。普通の大学生をしていると思います。

——その中で不便なことはありますか？

そうですね、1番に思うのは食堂ですね。ソースの色とかが見分けづらいので間違えて取っちゃったり、定食のセットになっているお味噌汁とマーボー豆腐間違えたりしますね。食堂の方が気づいて伝えてくれることもあるんですが忙しそうだとそれもなかなか無いので結局レジまで行って、指摘されたら間違えて取ったものは返してもらっています。あと、麺類のコーナーにある小さいカードも見づらいので自分の食べたいものを探すのが大変ですね。ケース（図1）を立てて凝視するんですけど決めるのが遅いし、周りの人に迷惑かなって。だから、とりあえず（迷ったら）から揚げって言っています。

一なるほど、全く気が付きました。それ以外、例えば授業場面で困ることはありますか？

広い講義室だと半分より後ろに座ると全く見えないですよね。前に座ったりすればそれでもいいのですが、友人と一緒に座るとなるとだいたい後ろの方に座りたがる人が多いので。最初は真面目に授業を受けようと一人で前の方の席に座っていたんですが、そうすると友達との会話に入れなかったりしました。

——どのように対処されますか？

私の場合は単眼鏡みたいなものを使えば視力が0.8程度になるのでそれを使ったり、あとは授



図1 学食の食券

注文時にはメニューが書かれた札を右上のケースに入れる

業終わりにスマートフォンで撮影したり、友達から後で内容を教えてもらったりしています。スライドを配布してくれる先生の授業であればそれで済むのですが、そういう先生ばかりでも無いので。一番困るのが、配布しないスライドを大量に使う授業、この場合はノートもとれないので半ばあきらめています。授業資料全般についてですが moodle にアップロードするか、その場で配布などをしてもらうと、とっても助かりますね。せっかくオンラインのシステムがあるので活用してほしいです。

——そういう困った場面で障害学生支援ピア・サポーターを利用したいと思いますか？

いや、特にないですね。健康診断の時などのイベントだとひとりでは対処しきれなかつたりするので、そういう困ったときに頼れるという感じでいいかなと思います。

#### 編集後記

インタビューのなかで「普通に」という単語が繰り返し使われた。「普通に（自分が我慢すればいいけれど）」「私普通が分からぬので」「（学生は）普通こうだから」このような言葉の背景には自身が「普通」でないがゆえに他人へ迷惑をかけるかもしれないことを気にかけるよう感じられた。

入学式の際に A さんが求めていた支援と移動支援をした学生の想像との間に乖離があったと伺った。支援にあたる PS 学生も当事者にとって不必要な支援を押し付ける可能性はある。求められる支援を提供するために心掛けるべきことは多い。具体的な支援方法や要望を聞き取ったうえで支援に入ることはもちろん、PS 学生は支援の経験や知識を増やすと同時に柔軟に支援利用学生の要望を発見し対応できる技術が求められている。また支援に当たる前段階としてどのような支援を受けられるのか積極的に情報提供を行うなど、直接支援の場面以外でも必要な人が支援にアクセスできる環境を整備する必要がある。

人によって「困り」が表れる場面も環境も頻度も異なる。だからこそ一人ひとりの要望丁寧に聞き取ることが重要であるが、そもそも支援を求めづらい、どうしたらいいのかわからないなどの状況も考えられる。A さんは日常的な困りごとと同じくらい他人に迷惑をかけたり、周囲の人から特別視されたりすることを気にかけていた。他者理解というと大げさかもしれないが、自分ではない人を尊重し、その人の状況や背景を想像することから始めたい。（安部）

## 参考資料

ピア・サポーターネーム簿

氏名	所属学部・学府	学年
大野 愛哉	人間環境学府	博士1年
松石 真理子	人間環境学府	修士2年
宮城 実佳	人間環境学府	修士2年
上野 麻衣	人間環境学府	修士1年
原田 英	人間環境学府	修士1年
鮫島 優美子	人間環境学府	修士1年
坂部 洋太	教育学部	学部4年
村田 海翔	農学部	学部4年
山本 悠子	経済学部	学部3年
坂井 法仁	理学部	学部3年
武田 彩	理学部	学部3年
安部 咲紀	21世紀プログラム	学部3年
荒木 ゆうか	教育学部	学部2年
落 悠馬	教育学部	学部2年
山口 智昌	教育学部	学部2年
林 実咲	法学部	学部2年
高木 美南	医学部	学部2年
高橋 千紘	医学部	学部2年
大川 優生	工学部	学部2年
板倉 健大	工学部	学部2年
下田 成大	工学部	学部2年
川上 里以菜	芸術工学部	学部2年
墨田 知世	芸術工学部	学部2年
吉富 佑樹	芸術工学部	学部2年
筒井 優菜	共創学部	学部1年
小山 純奈	法学部	学部1年
森下 裕	芸術工学部	学部1年
村上 日香	芸術工学部	学部1年
川波 花音	芸術工学部	学部1年
貞方 栄	芸術工学部	学部1年

# 2018 年度九州大学障害学生支援ピア・サポートー 活動報告書

令和元年 6 月 発行

編 集 安部 咲紀

表 紙 川波 花音

発行元 九州大学インクルージョン支援推進室

〒819-0395 福岡市西区元岡 744 伊都キャンパス センター1号館 1階 1104 室

電話 : 092-802-5859

E-mail : inclusion@chc.kyushu-u.ac.jp

